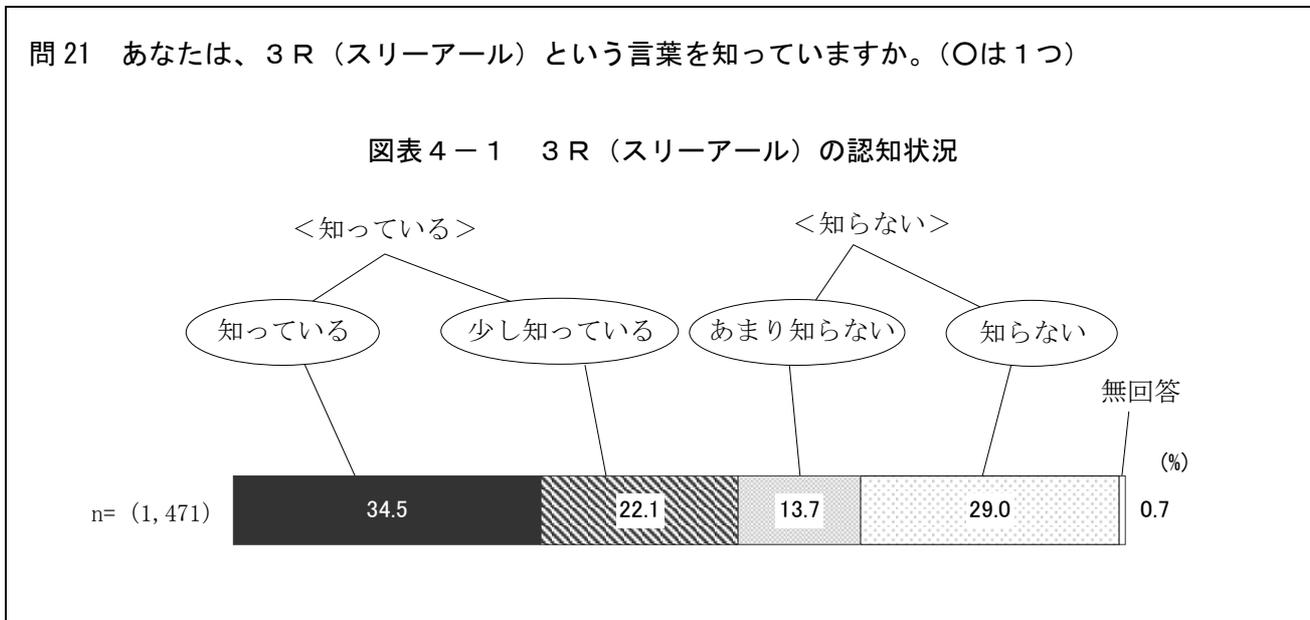


4 廃棄物処理について

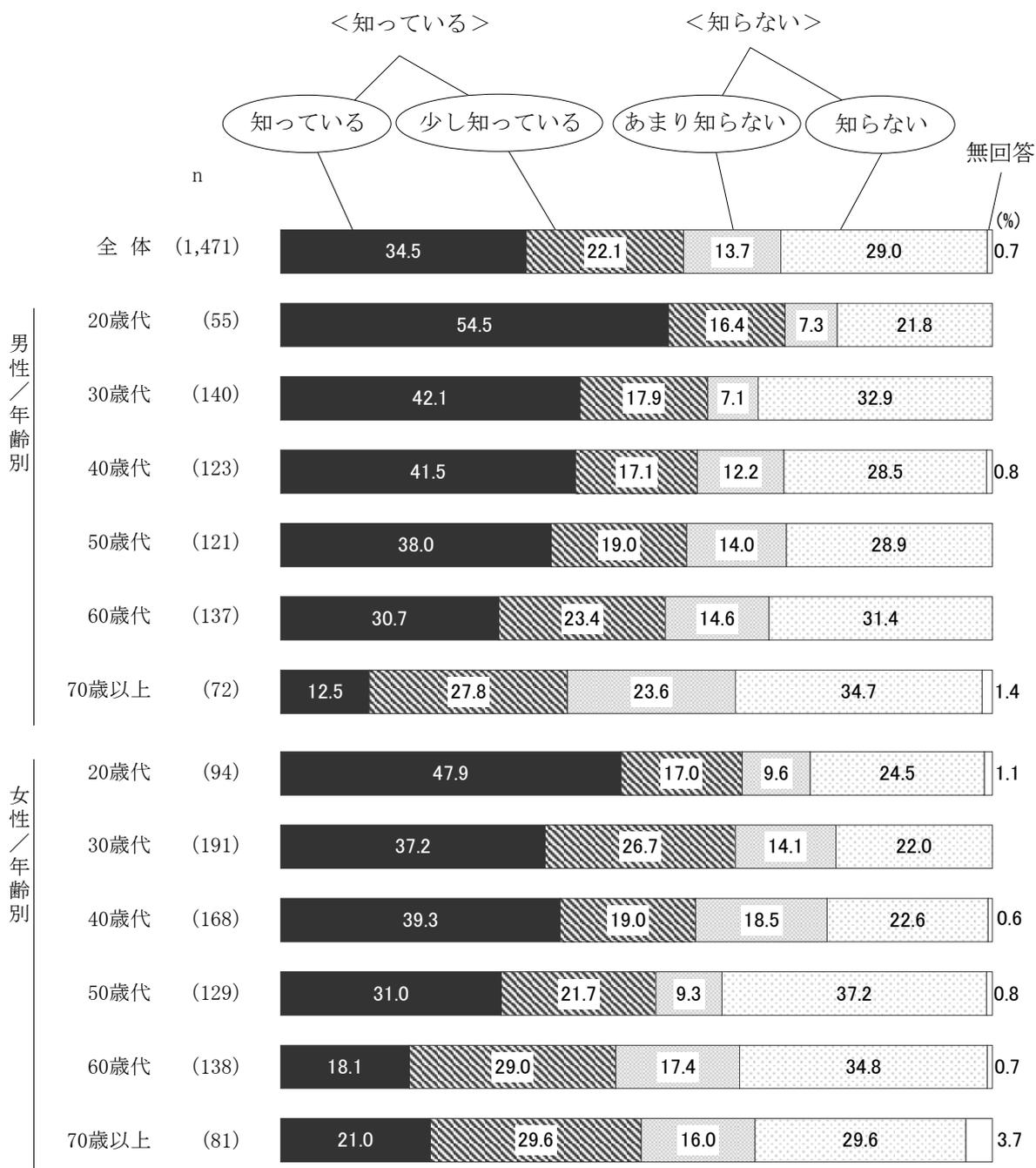
4-1 3R（スリーアール）の認知状況

◎<知っている>が56.6%



3R（スリーアール）の認知状況は、「知っている」（34.5%）と「少し知っている」（22.1%）をあわせた<知っている>が56.6%となっている。一方、「あまり知らない」（13.7%）と「知らない」（29.0%）をあわせた<知らない>が42.7%となっている。（図表4-1）

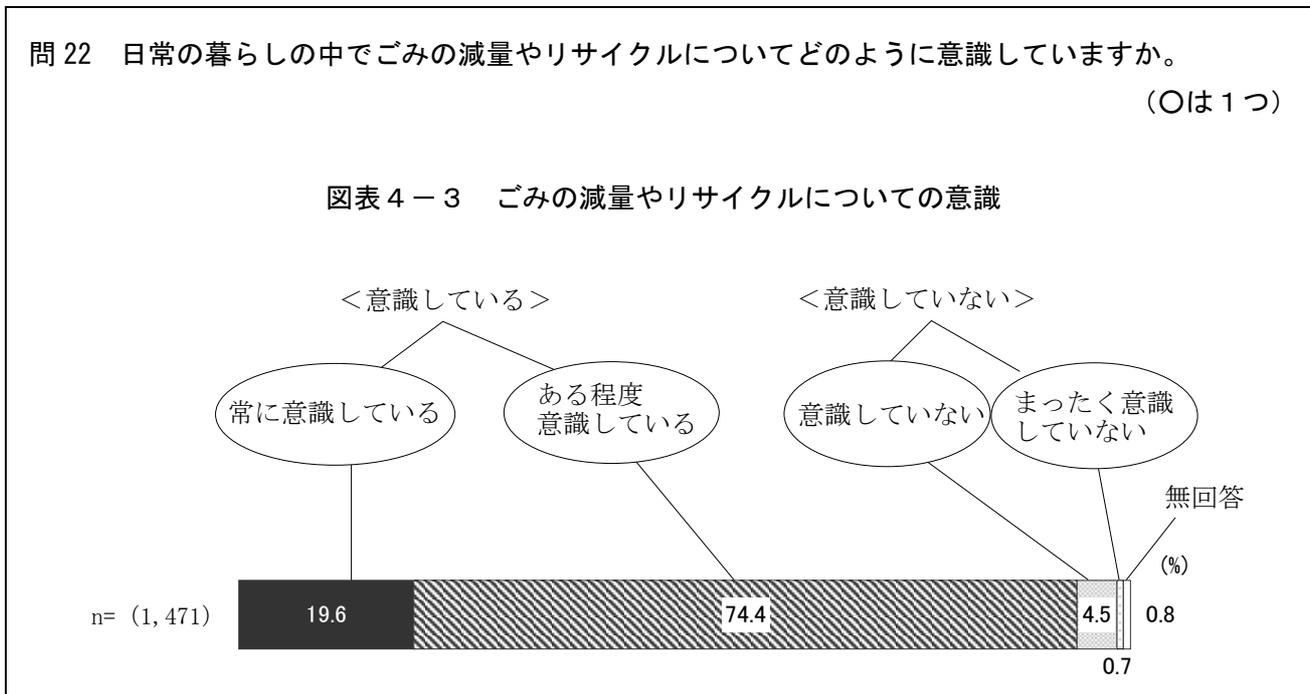
図表4-2 3R(スリーアール)の認知状況(性/年齢別)



性/年齢別では、<知っている>は、男女ともに年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表4-2)

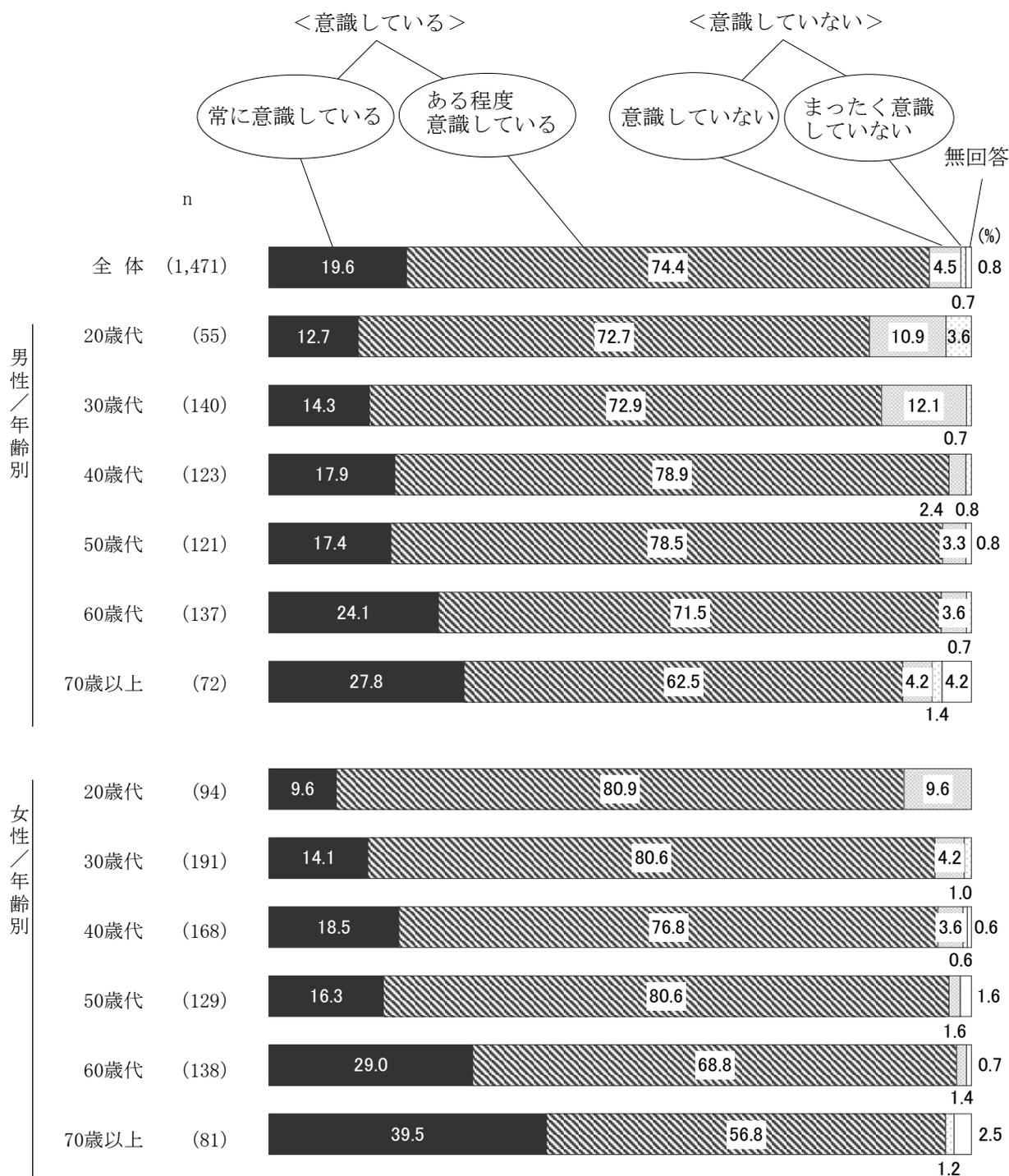
4-2 ごみの減量やリサイクルについての意識

◎<意識している>が94.0%



ごみの減量やリサイクルについての意識は、「常に意識している」(19.6%)と「ある程度意識している」(74.4%)をあわせた<意識している>が94.0%となっている。一方、「意識していない」(4.5%)と「まったく意識していない」(0.7%)をあわせた<意識していない>が5.2%となっている。(図表4-3)

図表4-4 ごみの減量やリサイクルについての意識(性/年齢別)



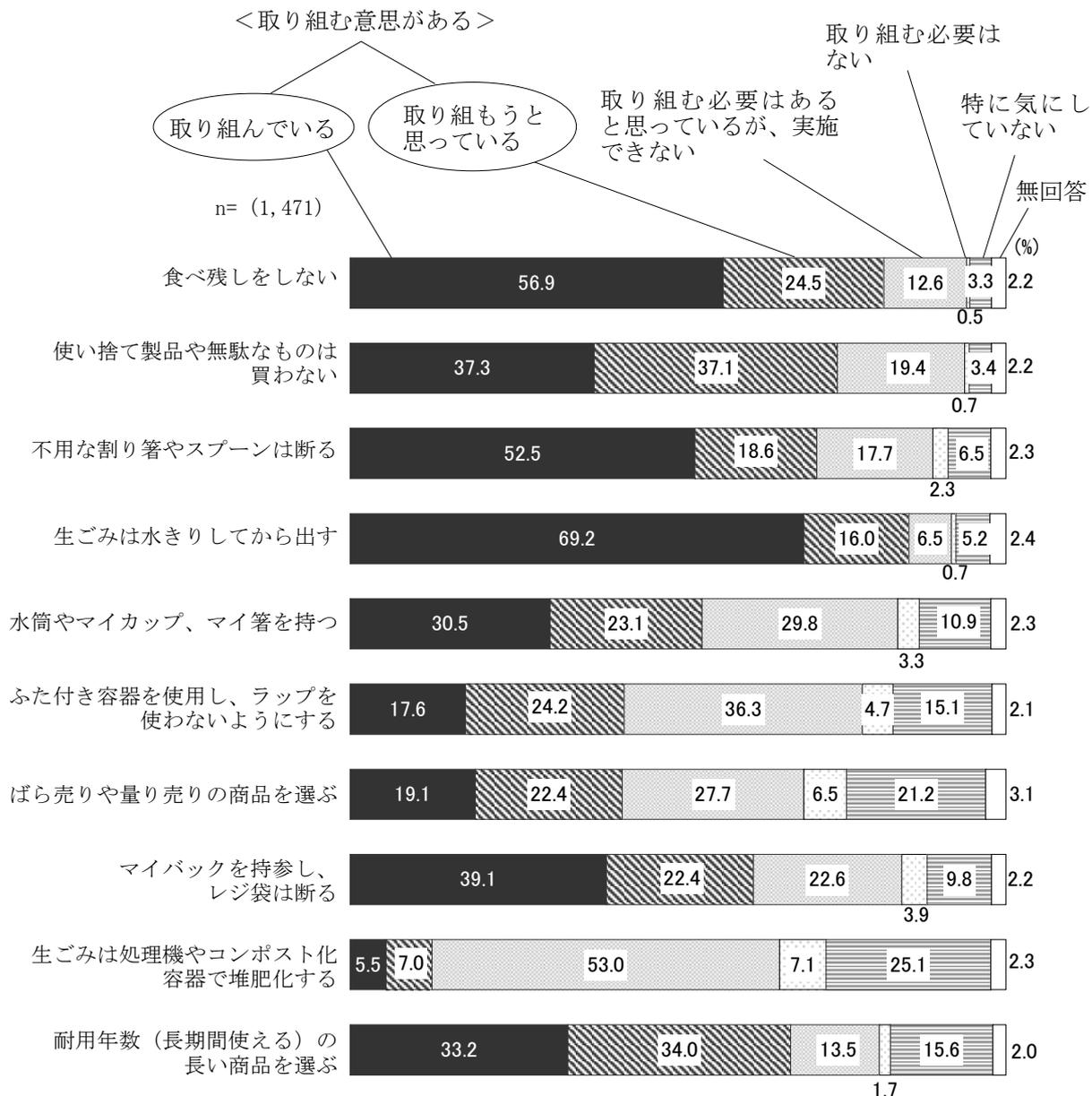
性/年齢別では、<意識している>は、男性の40歳代から70歳以上と女性のすべての年齢が9割以上となっている。(図表4-4)

4-3 リデュース（ごみを出さないこと）について実施していること

◎<取り組む意思がある>は「生ごみは水きりしてから出す」が85.2%

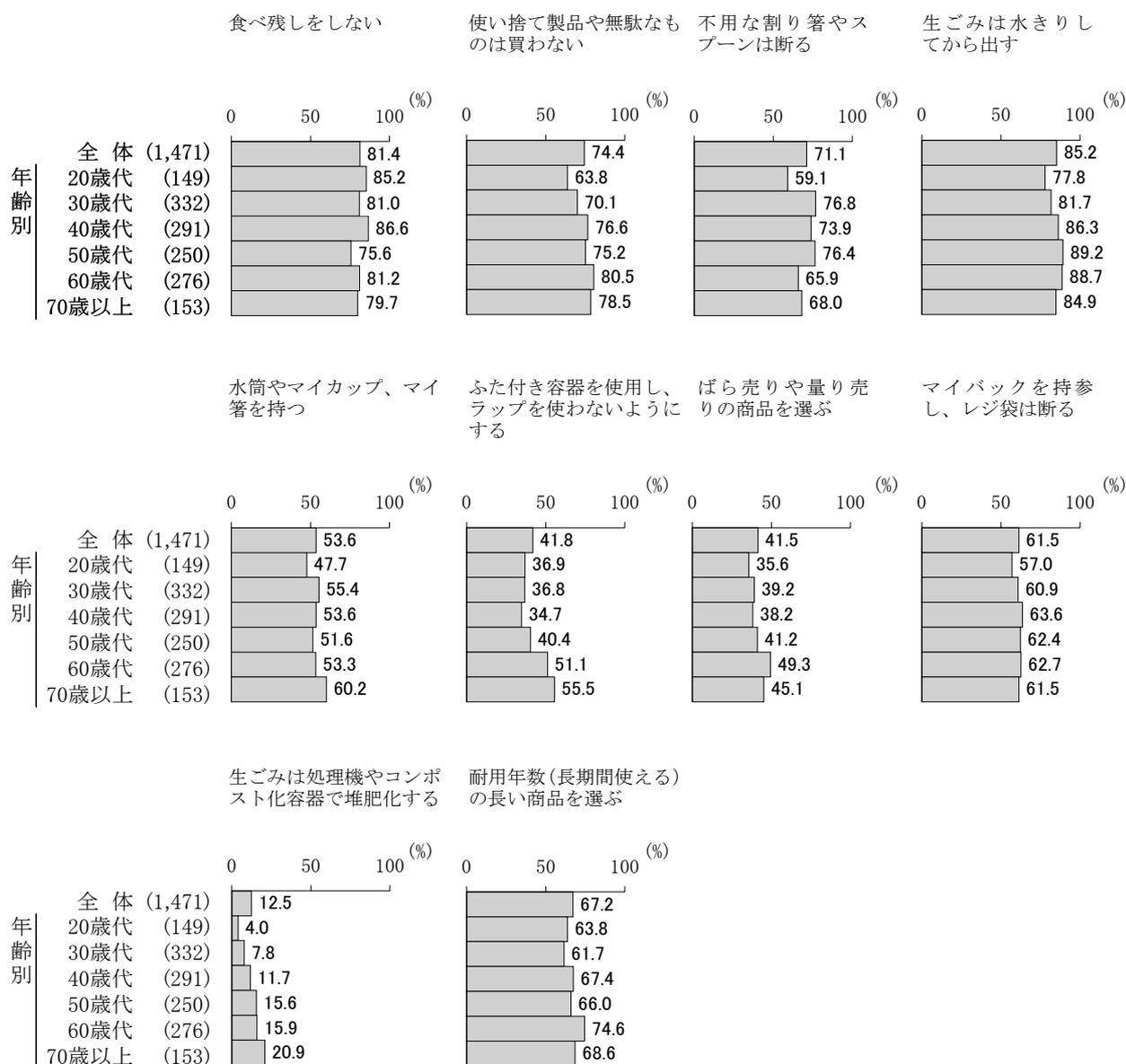
問23 3Rの取り組みの優先順位は、①リデュース②リユース③リサイクルとなっていますが、あなたはリデュース（ごみを出さないこと）について、実施していますか。（○はそれぞれ1つずつ）

図表4-5 リデュース（ごみを出さないこと）への取り組み



リデュース（ごみを出さないこと）への取り組みは、「取り組んでいる」と「取り組もうと思っている」をあわせた<取り組む意思がある>が多いのは、「生ごみは水きりしてから出す」（85.2%）、「食べ残しをしない」（81.4%）、「使い捨て製品や無駄なものは買わない」（74.4%）となっている。（図表4-5）

図表4-6 リデュース（ごみを出さないこと）への取組み（＜取り組む意思がある＞、年齢別）



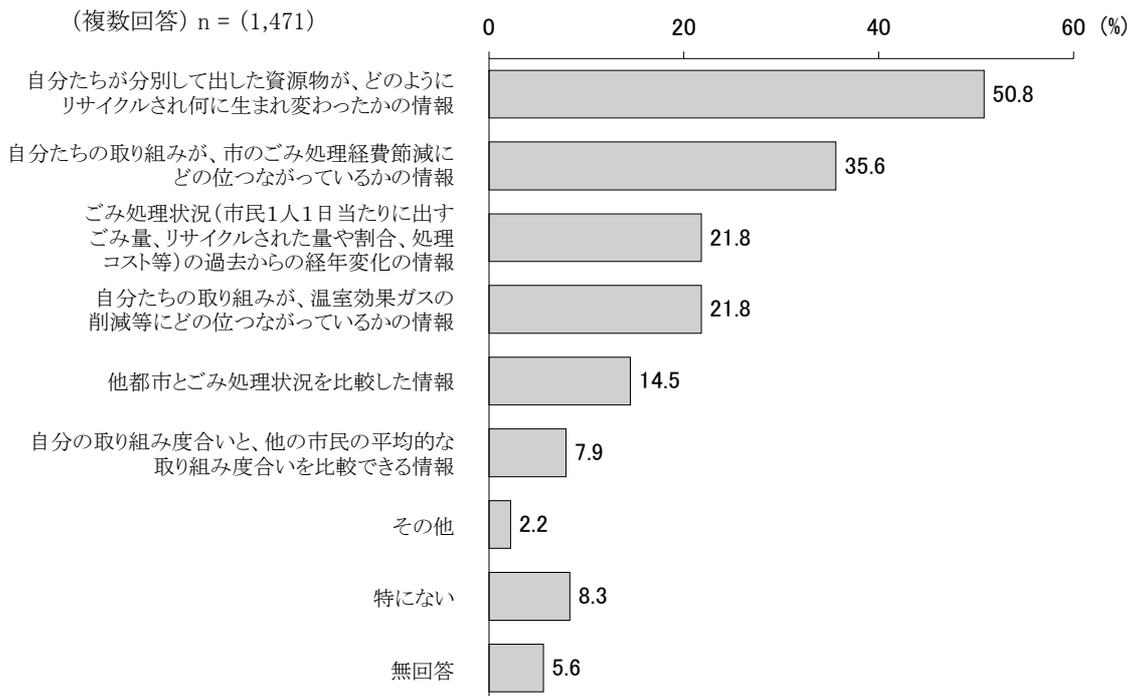
年齢別では、「生ごみは水きりしてから出す」は、30歳代以上で8割台となっている。「不用な割り箸やスプーンは断る」は、20歳代が59.1%と少なくなっている。「食べ残しをしない」、「生ごみは水きりしてから出す」は、いずれの年齢においても約8割となっている。(図表4-6)

4-4 ゴミ処理に関して知りたい情報

◎「自分たちが分別して出した資源物が、どのようにリサイクルされ何に生まれ変わっているかの情報」が50.8%

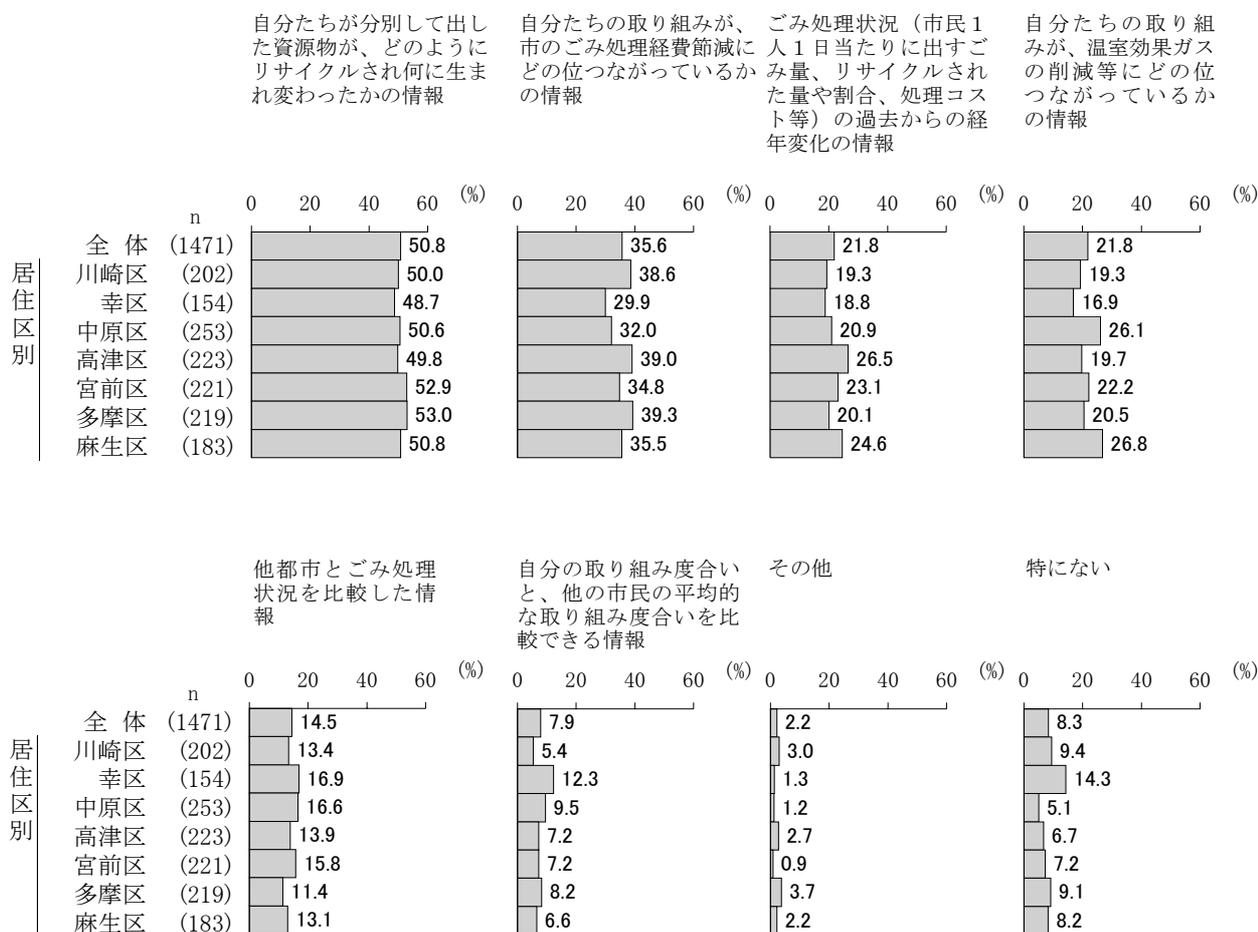
問24 ごみ処理に関わるどのような情報を知りたいと思いますか（○は2つまで）

図表4-7 ゴミ処理に関して知りたい情報



ゴミ処理に関して知りたい情報は、「自分たちが分別して出した資源物が、どのようにリサイクルされ何に生まれ変わっているかの情報」(50.8%)が最も多くなっている。次いで、「自分たちの取り組みが、市のごみ処理費節減にどの位つながっているのかの情報」(35.6%)となっている。(図表4-7)

図表4-8 ゴミ処理に関して知りたい情報（居住区別）



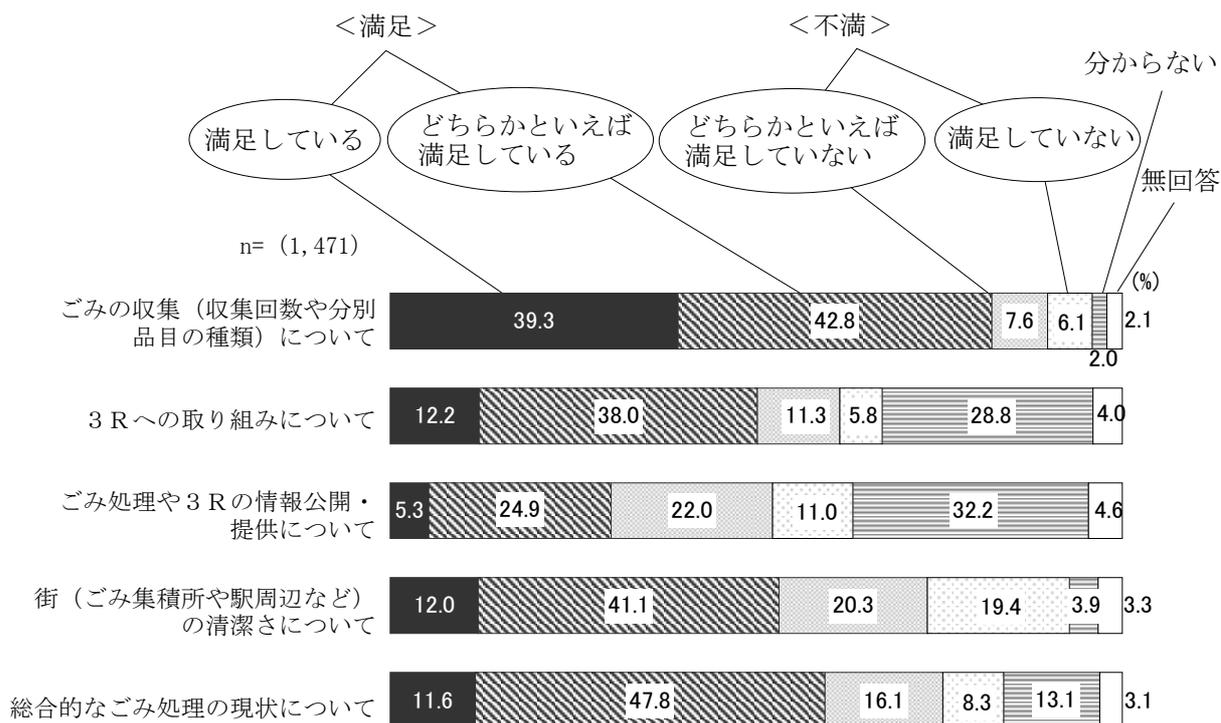
居住区別では、「自分たちが分別して出した資源物が、どのようにリサイクルされ何に生まれ変わったかの情報」は、いずれの区でも5割前後となっている。「自分たちの取り組みが、市のごみ処理経費節減にどの位つながっているかの情報」は、川崎区、高津区、多摩区が3割台後半と多くなっている。(図表4-8)

4-5 現在の市のごみ処理の満足度

◎<満足>は「ごみの収集（収集回数や分別品目の種類）について」が82.1%

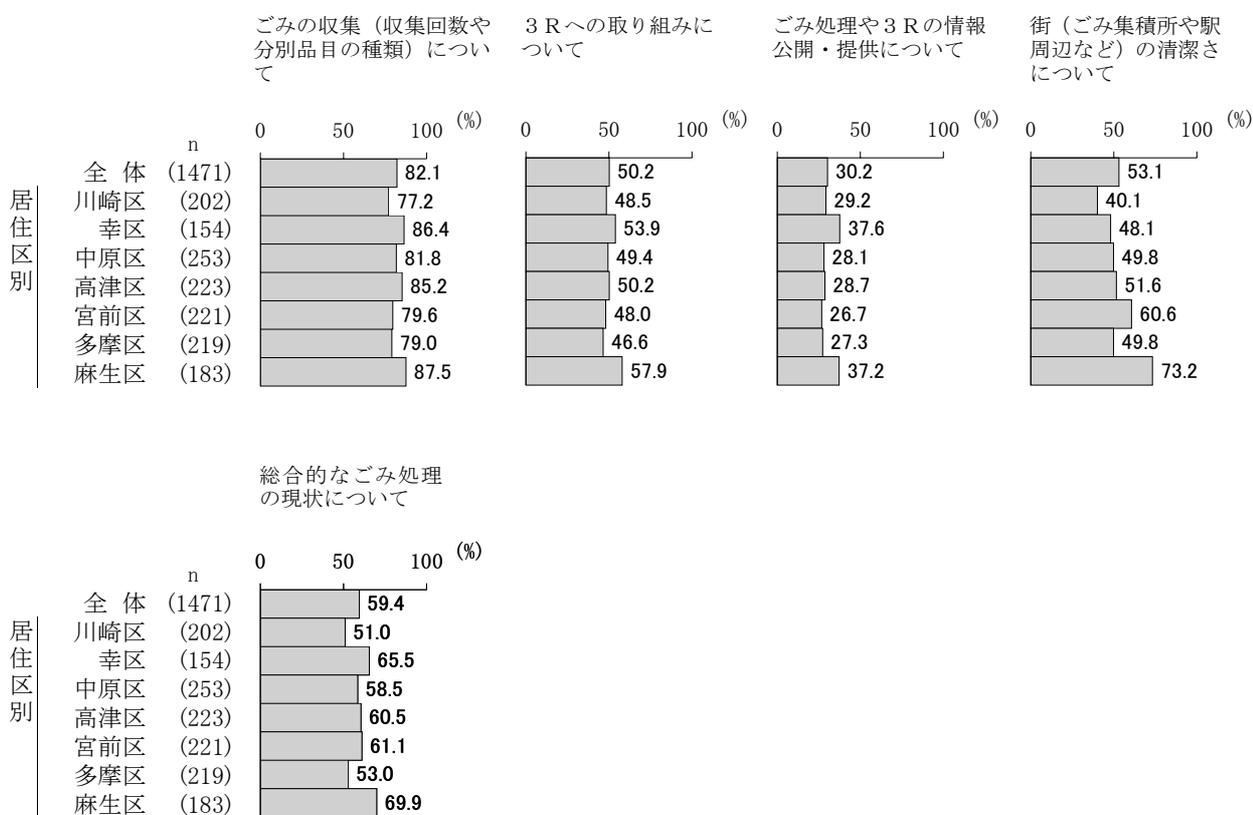
問25 市では、ごみの減量・リサイクルを推進するため、様々な施策に取り組んでいますが、現在のごみ処理についてどの程度満足していますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

図表4-9 現在の市のごみ処理の満足度



現在の市のごみ処理の満足度は、「満足している」と「どちらかといえば満足している」をあわせて<満足>が多いのは、「ごみの収集（収集回数や分別品目の種類）について」（82.1%）、「総合的なごみ処理の現状について」（59.4%）、「街（ごみ集積所や駅周辺など）の清潔さについて」（53.1%）となっている。（図表4-9）

図表4-10 現在の市のごみ処理の満足度 (<満足>、居住区別)



居住区別では、「ごみの収集（収集回数や分別品目の種類）について」、「ごみ処理や3Rの情報公開・提供について」、「総合的なごみ処理の現状について」は、全体的に麻生区が多くなっている。（図表4-10）

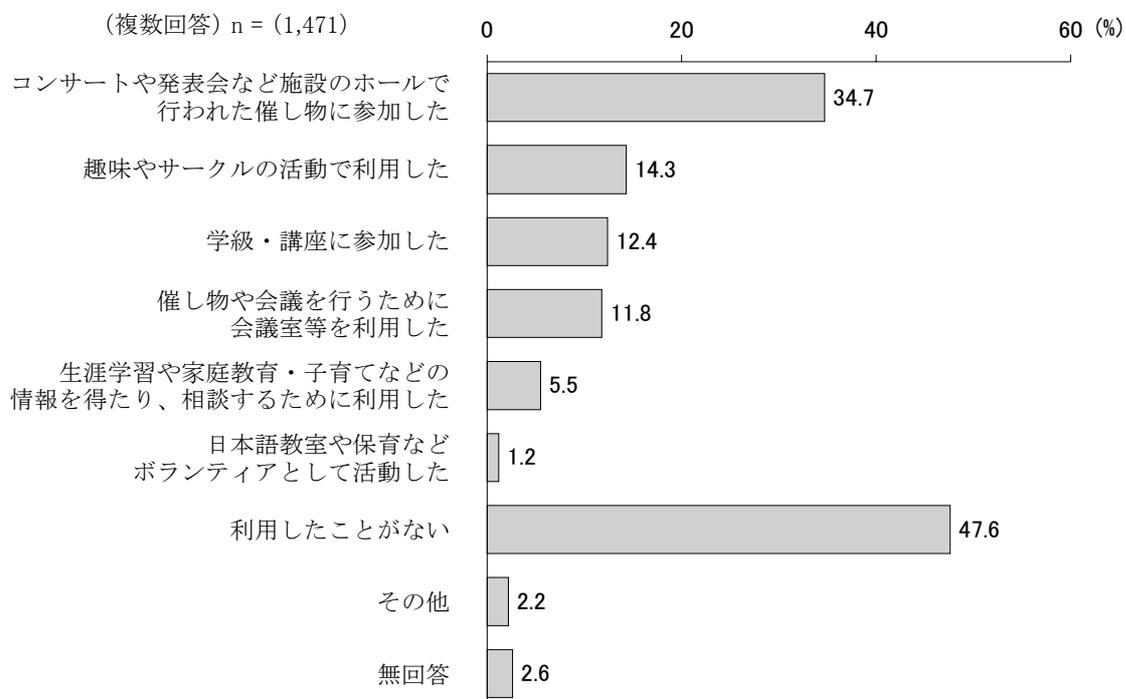
5 生涯学習について

5-1 市民館等の利用内容

◎「コンサートや発表会など施設のホールで行われた催し物に参加した」が34.7%、「利用したことがない」が47.6%

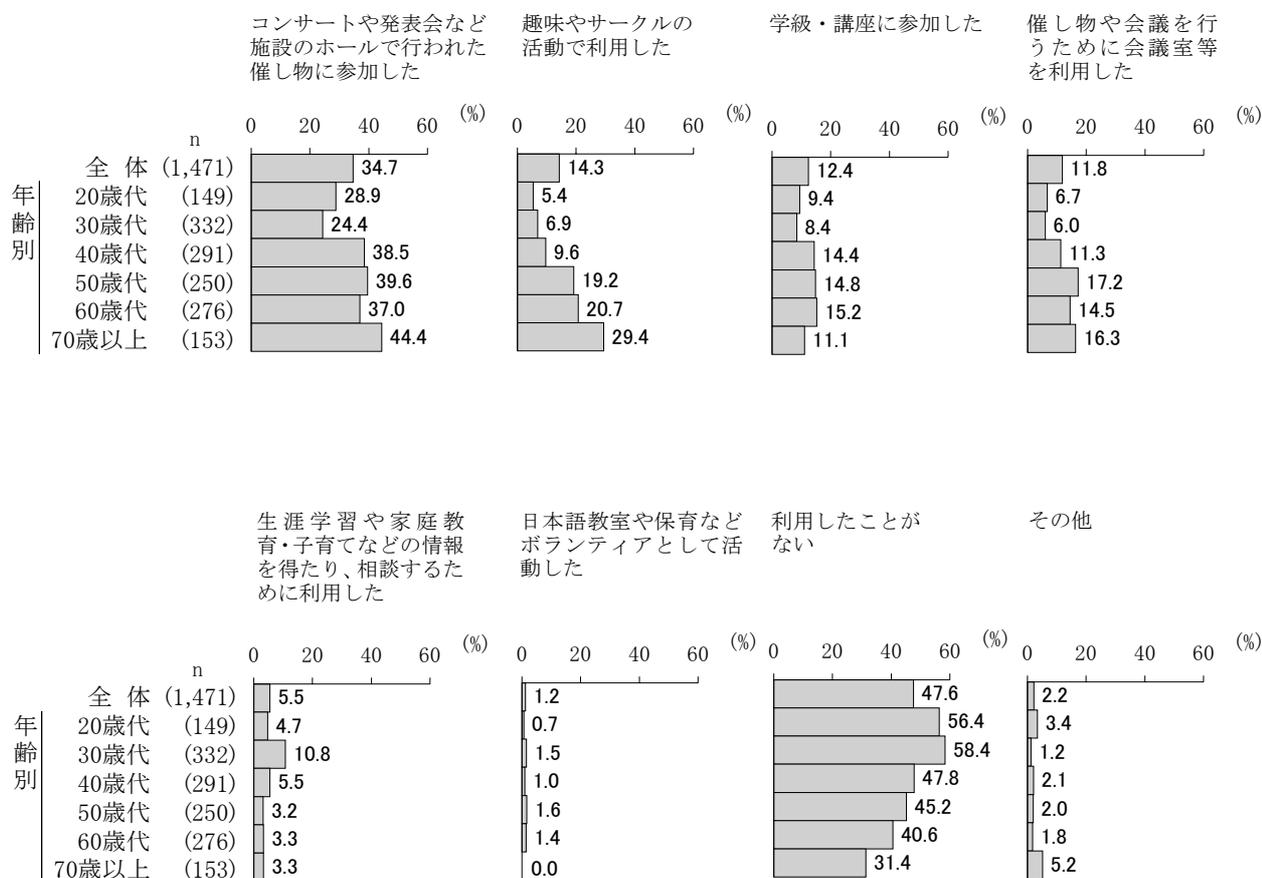
問26 公民館等の利用についておうかがいします。あなたは、公民館等を利用したことがありますか。また、その場合どのような用件で利用されましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表5-1 市民館等の利用内容



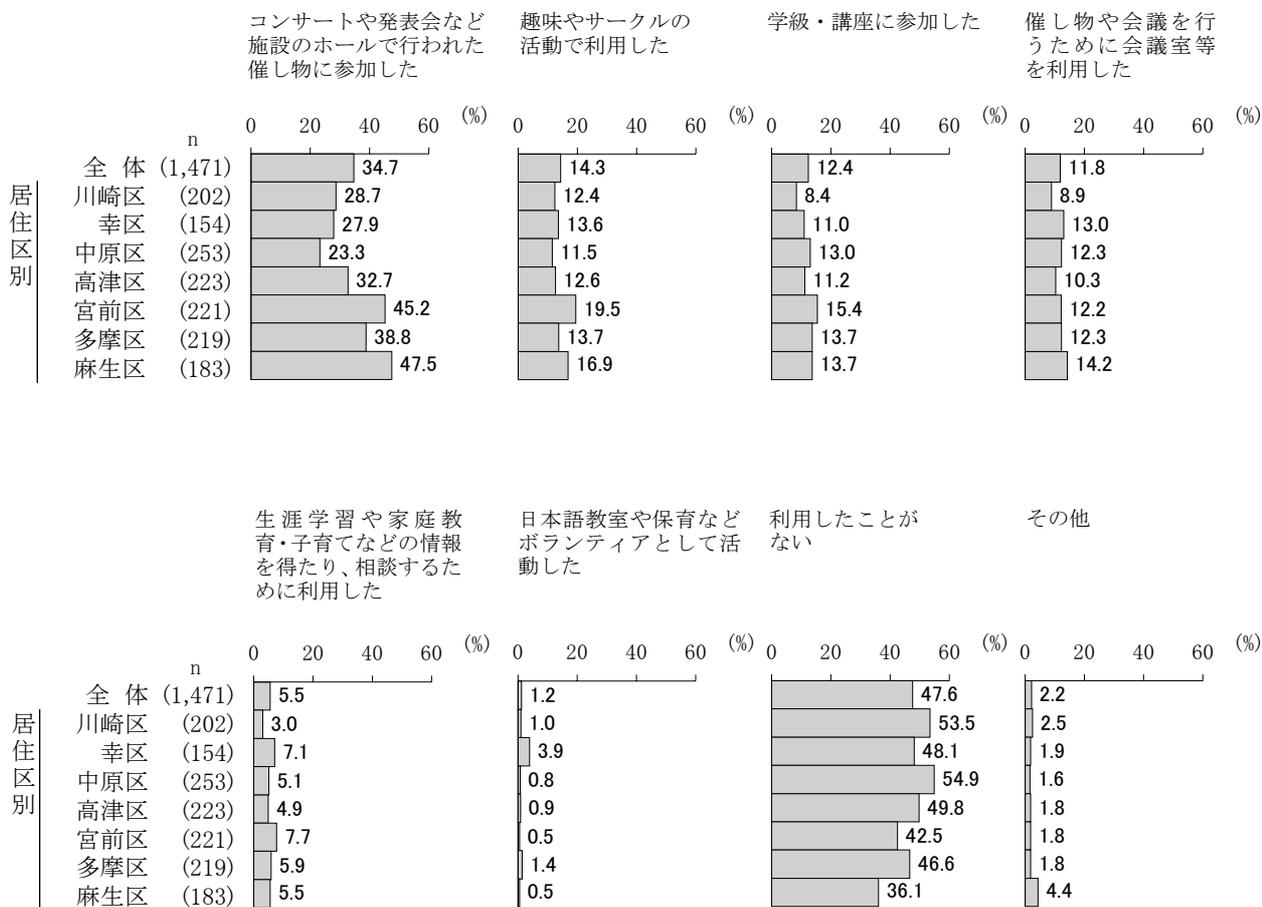
市民館等の利用内容は、「コンサートや発表会など施設のホールで行われた催し物に参加した」(34.7%)が最も多くなっている。次いで、「趣味やサークルの活動で利用した」(14.3%)、「学級・講座に参加した」(12.4%)となっている。一方、「利用したことがない」は47.6%となっている。(図表5-1)

図表5-2 市民館等の利用内容(年齢別)



年齢別では、「コンサートや発表会など施設のホールで行われた催し物に参加した」は、40歳代から多くなる傾向にあり、70歳以上が4割台半ばと多くなっている。「趣味やサークルの活動で利用した」は、年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。一方、「利用したことがない」は、30歳代から70歳以上で年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表5-2)

図表5-3 市民館等の利用内容（居住区別）



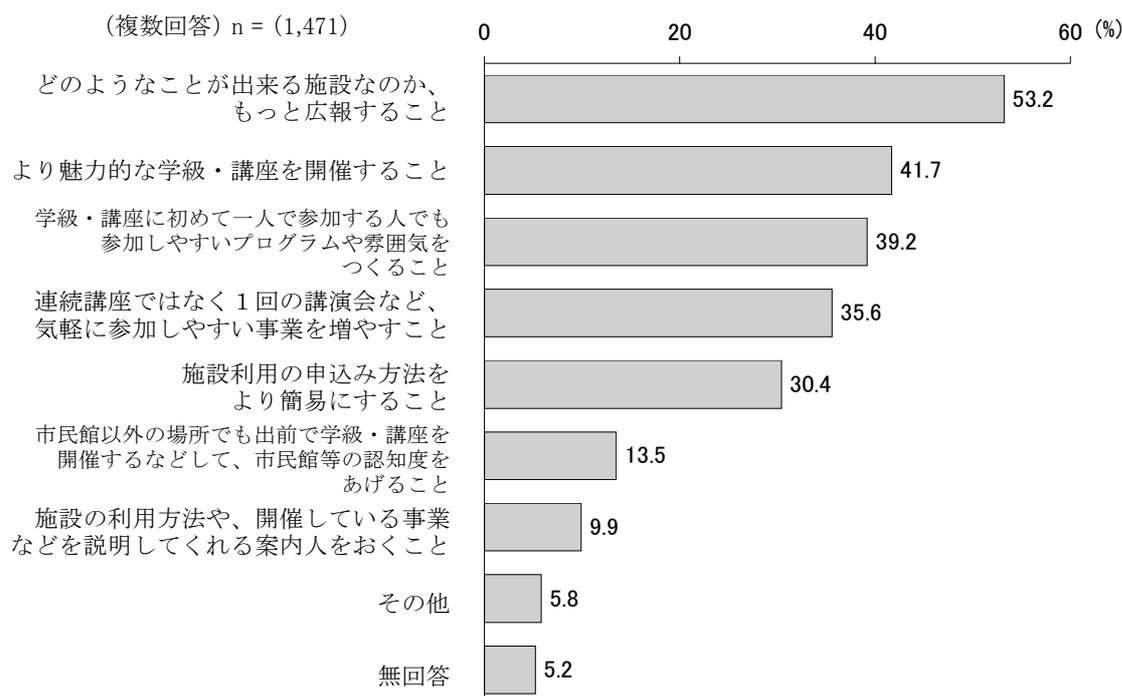
居住区別では、「コンサートや発表会など施設のホールで行われた催し物に参加した」は、宮前区と麻生区が4割台半ばと多くなっている。一方、「利用したことがない」は、川崎区と中原区が5割台半ばと多くなっている。(図表5-3)

5-2 市民館等を利用してもらうための工夫

◎「どのようなことが出来る施設なのかもっと広報すること」が53.2%

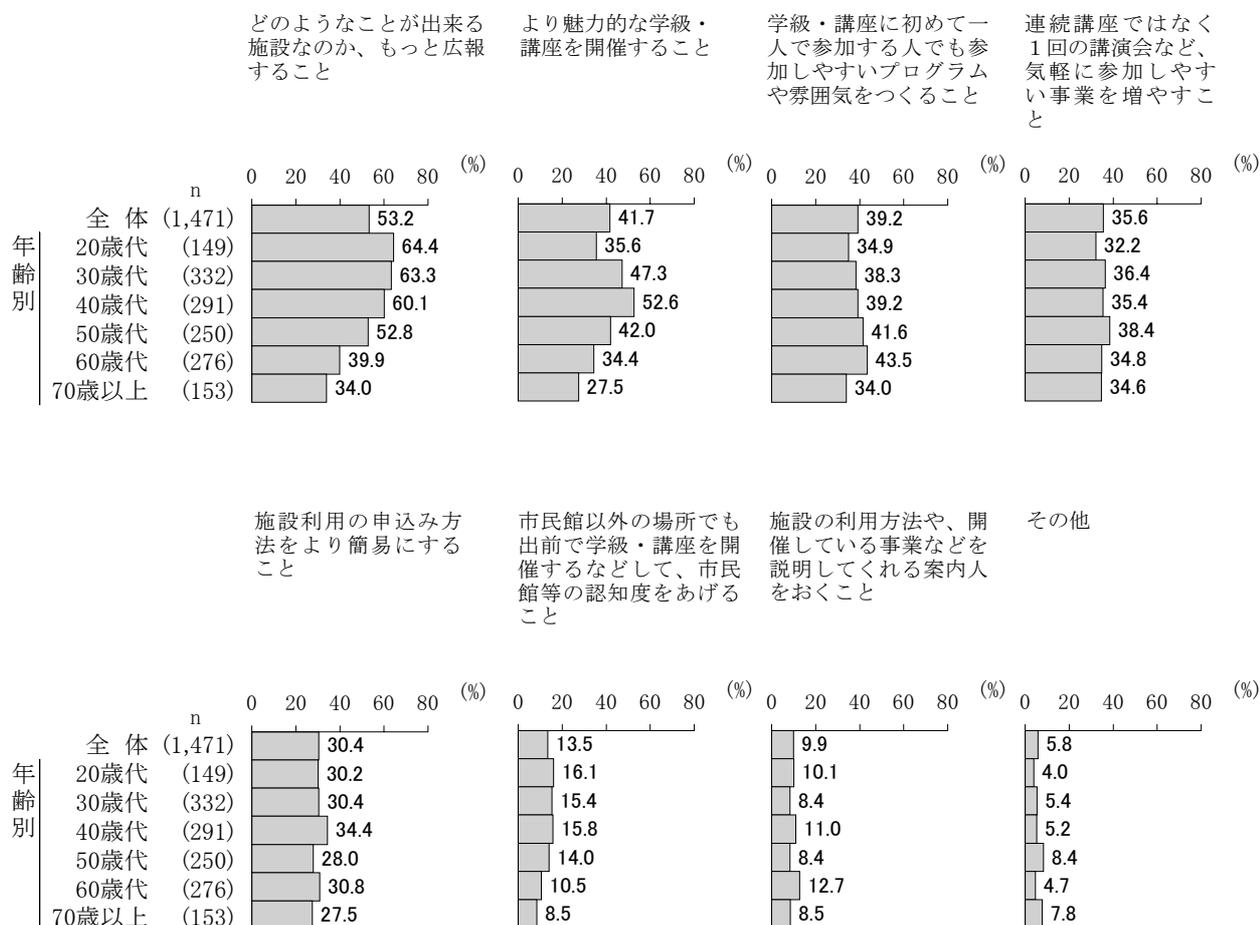
問27 より多くの市民のみなさんに市民館等を利用していただくために、どのような工夫が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表5-4 市民館等を利用してもらうための工夫



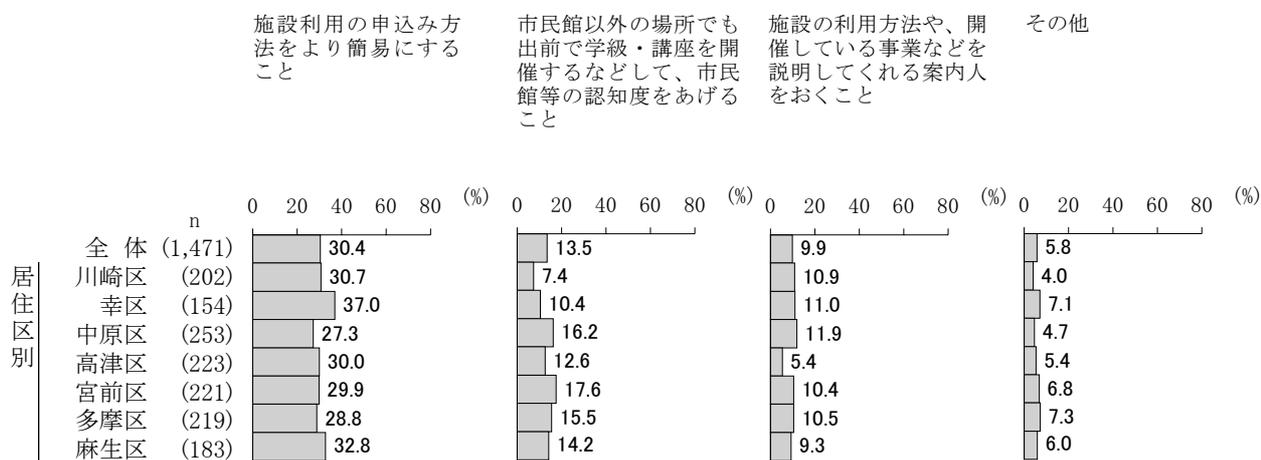
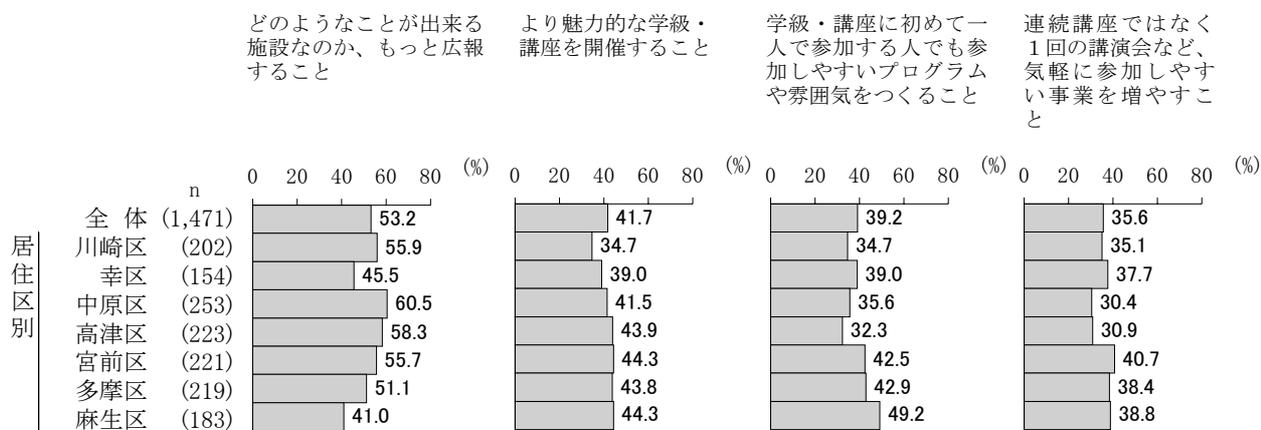
市民館等を利用してもらうための工夫は、「どのようなことが出来る施設なのかもっと広報すること」(53.2%)が最も多くなっている。次いで、「より魅力的な学級・講座を開催すること」(41.7%)、「学級・講座に初めて一人で参加する人でも参加しやすいプログラムや雰囲気をつくること」(39.2%)となっている。(図表5-4)

図表5-5 市民館等を利用してもらうための工夫（年齢別）



年齢別では、「どのようなことが出来る施設なのか、もっと広報すること」は、年齢が高くなるにつれ、割合が少なくなる傾向となっている。「より魅力的な学級・講座を開催すること」は、40歳代が5割台半ばと多くなっている。(図表5-5)

図表5-6 市民館等を利用してもらうための工夫（居住区別）



居住区別では、「どのようなことが出来る施設なのか、もっと広報すること」は、中原区が6割と多くなっている。(図表5-6)

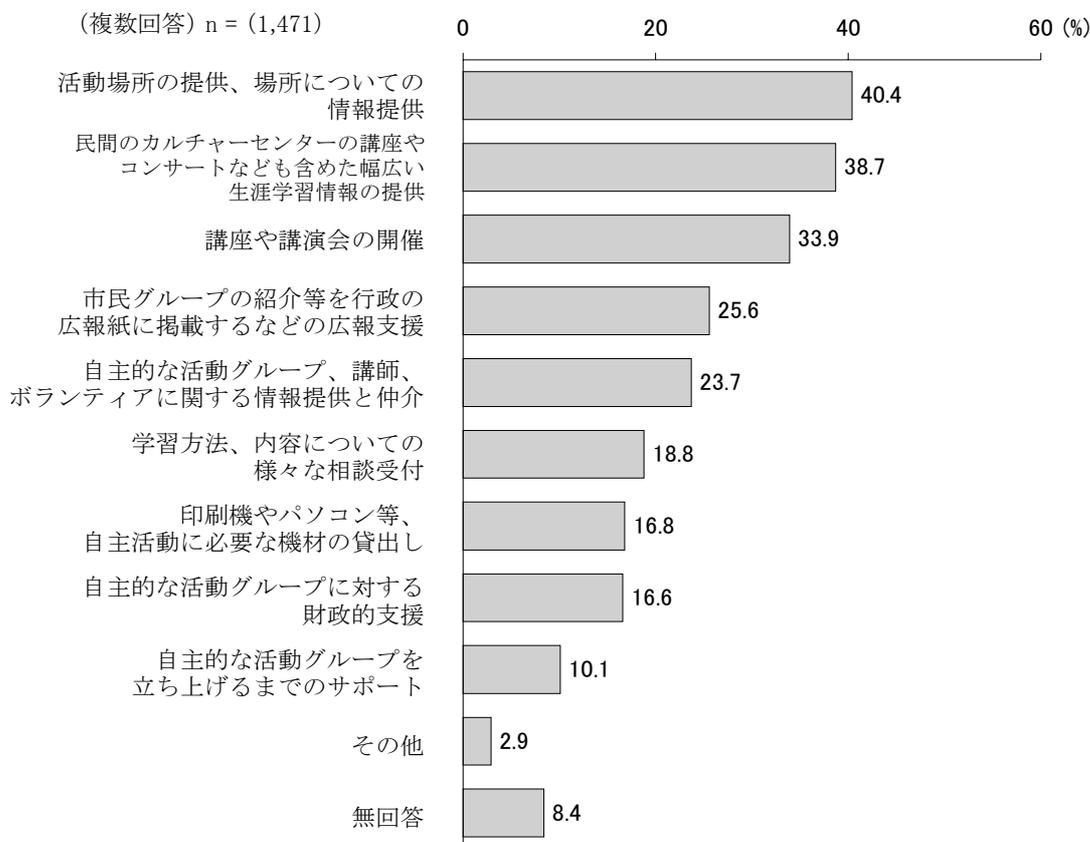
5-3 生涯学習活動を行うために行政に望む支援

◎「活動場所の提供、場所についての情報提供」が40.4%

問28 毎日の生活や人生をより豊かなものにした、自分を取り巻く環境をよりよいものにするために、関心のあることについて学び、活動することを生涯学習といいます。あなたが生涯学習活動を行うために、行政からのどのような支援があればよいと思いますか。

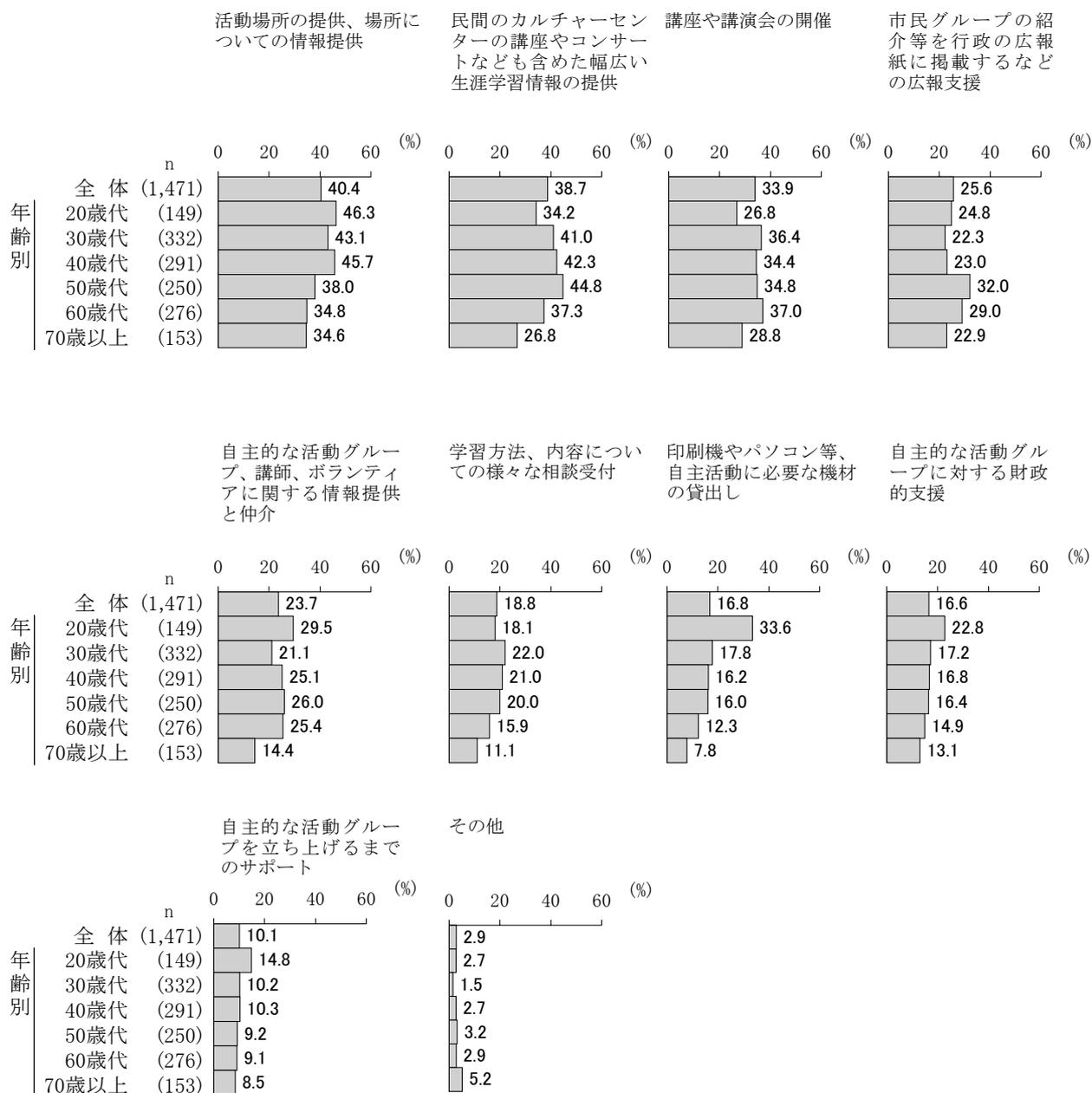
(あてはまるものすべてに○)

図表5-7 生涯学習活動を行うために行政に望む支援



生涯学習活動を行うために行政に望む支援は、「活動場所の提供、場所についての情報提供」(40.4%)が最も多くなっている。次いで、「民間のカルチャーセンターの講座やコンサートなども含めた幅広い生涯学習情報の提供」(38.7%)、「講座や講演会の開催」(33.9%)となっている。(図表5-7)

図表5-8 生涯学習活動を行うために行政に望む支援（年齢別）



年齢別では、「活動場所の提供、場所についての情報提供」は、20歳代から40歳代が4割台半ばと多くなっている。「印刷機やパソコン等、自主活動に必要な機材の貸出し」、「自主的な活動グループに対する財政的支援」は、年齢が高くなるにつれ、割合が少なくなる傾向となっている。（図表5-8）

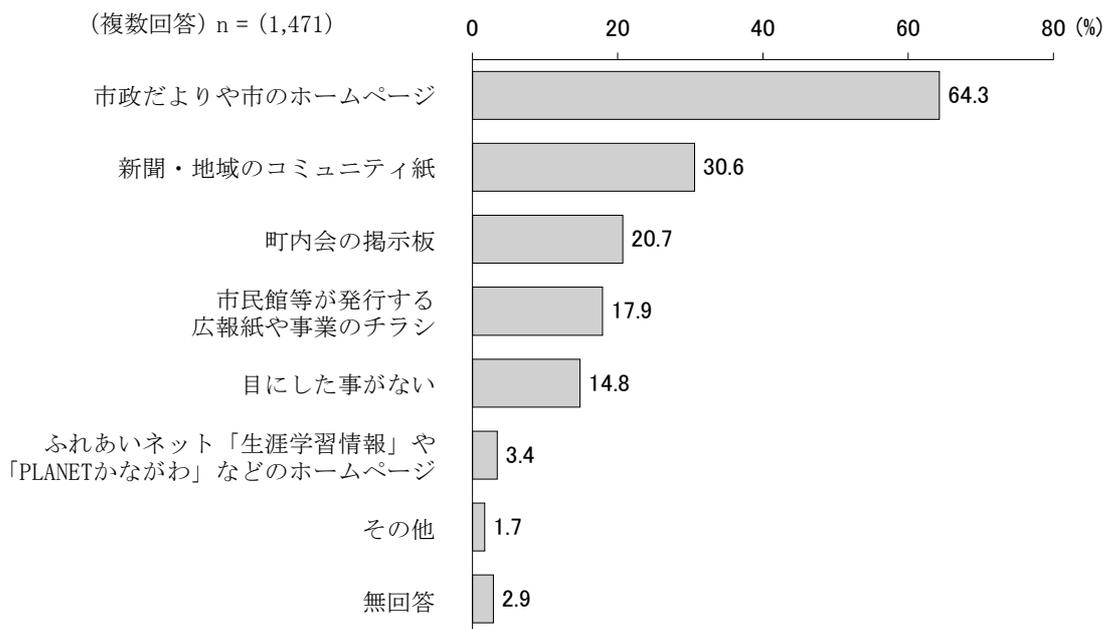
5-4 市の事業（生涯学習など）に関する情報の入手手段

◎「市政だよりや市のホームページ」が64.3%

問29 あなたは、市の事業（生涯学習など）に関する情報を、どこでご覧になりますか。

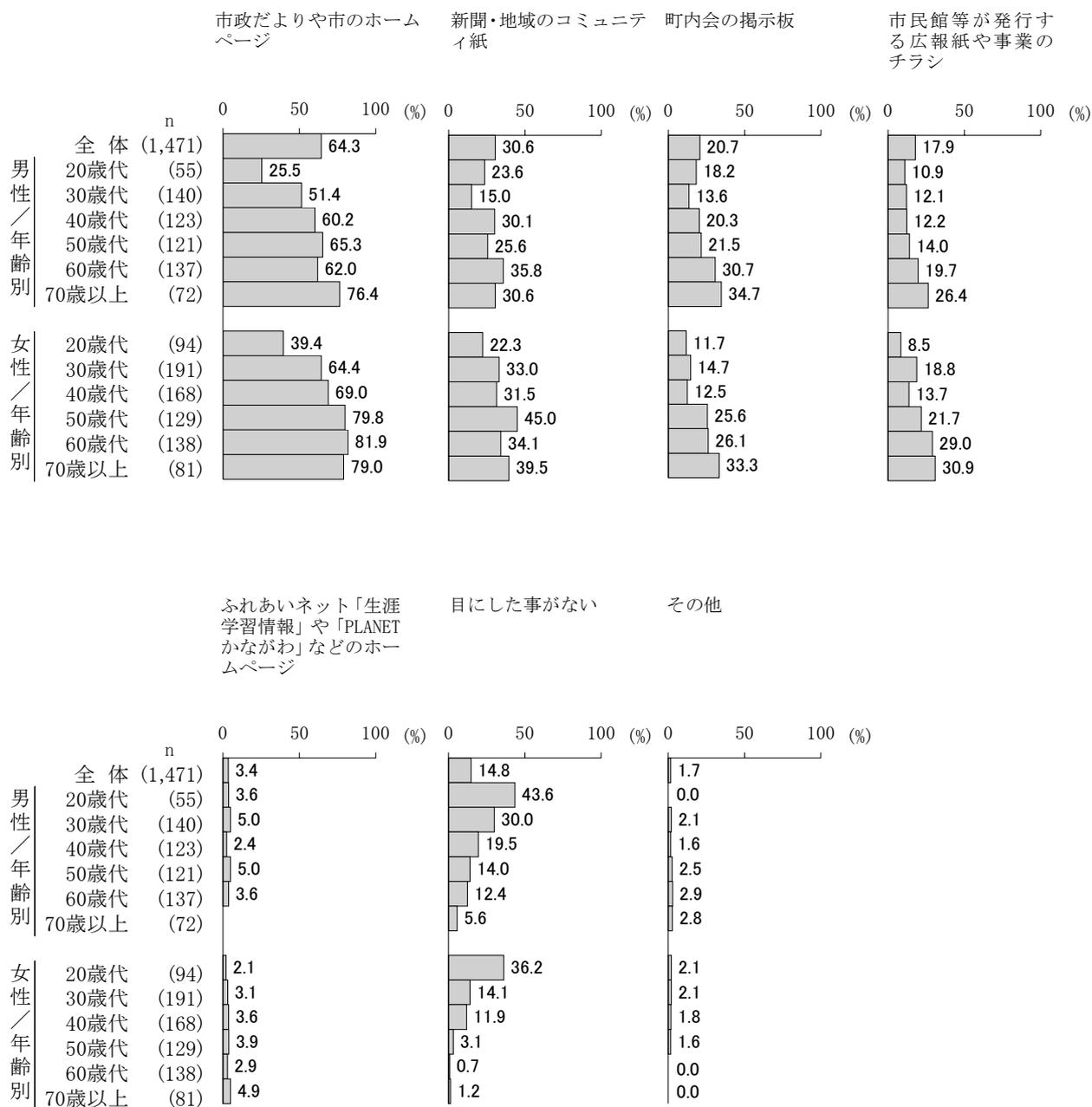
(あてはまるものすべてに○)

図表5-9 市の事業（生涯学習など）に関する情報の入手手段



市の事業（生涯学習など）に関する情報の入手手段は、「市政だよりや市のホームページ」（64.3%）が最も多くなっている。次いで、「新聞・地域のコミュニティ紙」（30.6%）、「町内会の掲示板」（20.7%）となっている。（図表5-9）

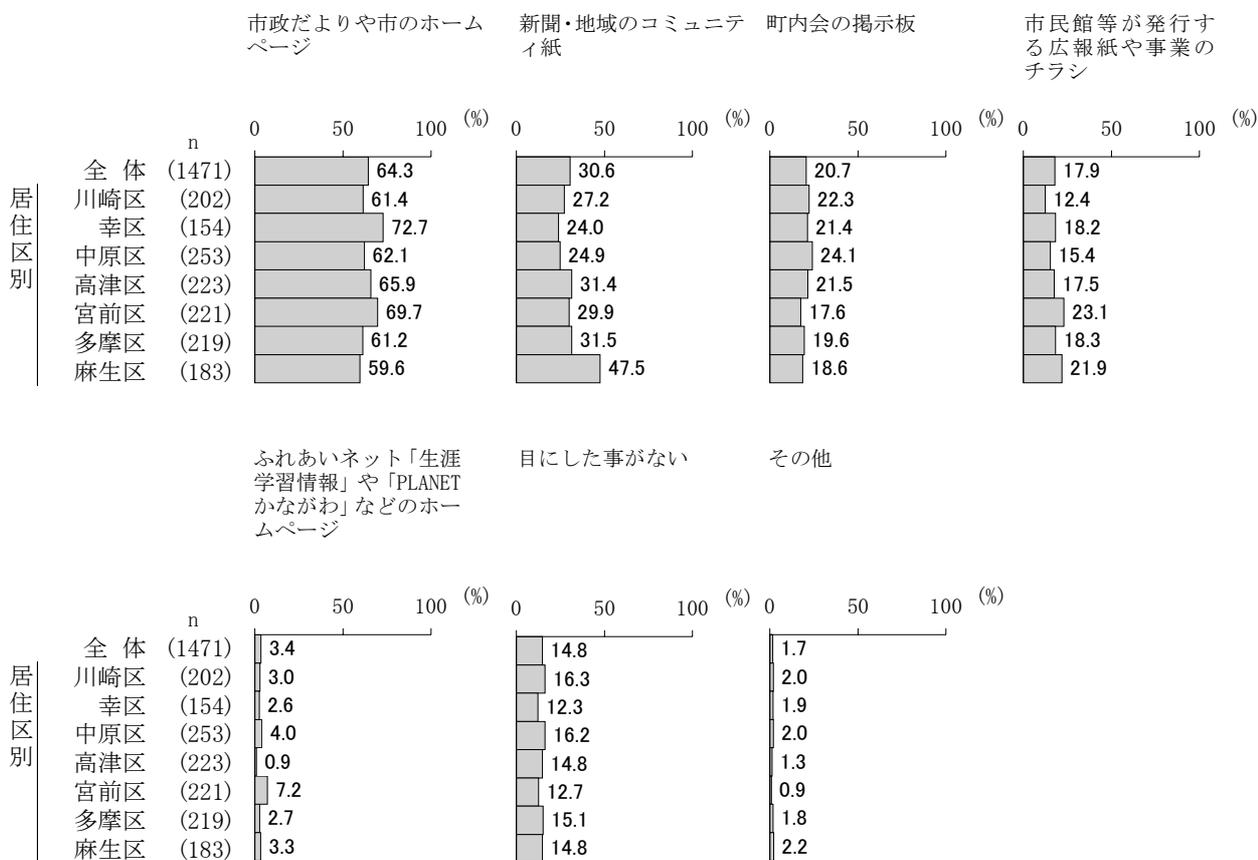
図表5-10 市の事業（生涯学習など）に関する情報の入手手段（性別／年齢別）



性別／年齢別では、「市政だよりや市のホームページ」は、男女ともおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。一方、「目にした事がない」は、男女ともに年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。（図表5-10）

(第1回アンケート)

図表5-11 市の事業（生涯学習など）に関する情報の入手手段（居住区別）



居住区別では、「市政だよりや市のホームページ」は、幸区が7割以上と多くなっている。「新聞・地域のコミュニティ紙」は、麻生区で4割台半ばと多くなっている。(図表5-11)

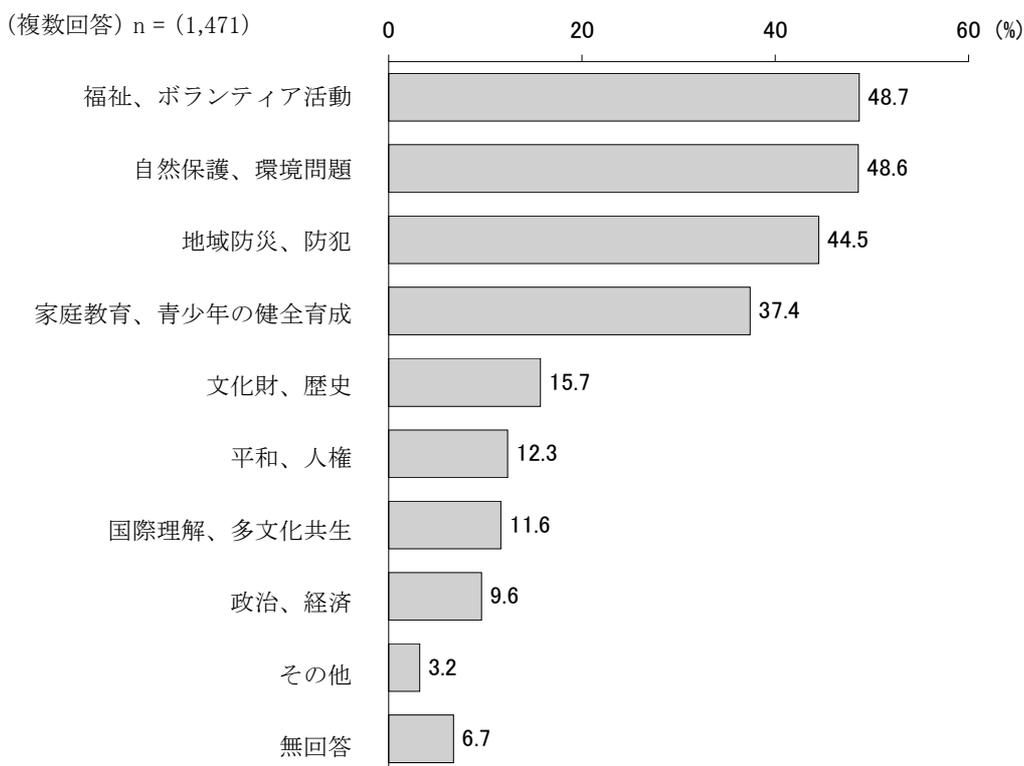
5-5 よりよい地域づくりのために必要な学習機会の内容

◎「福祉、ボランティア活動」48.7%、「自然保護、環境問題」48.6%、「地域防災、防犯」44.5%が4割以上

問30 よりよい地域づくりのためには、どのような内容の学習機会が必要だと思いますか。

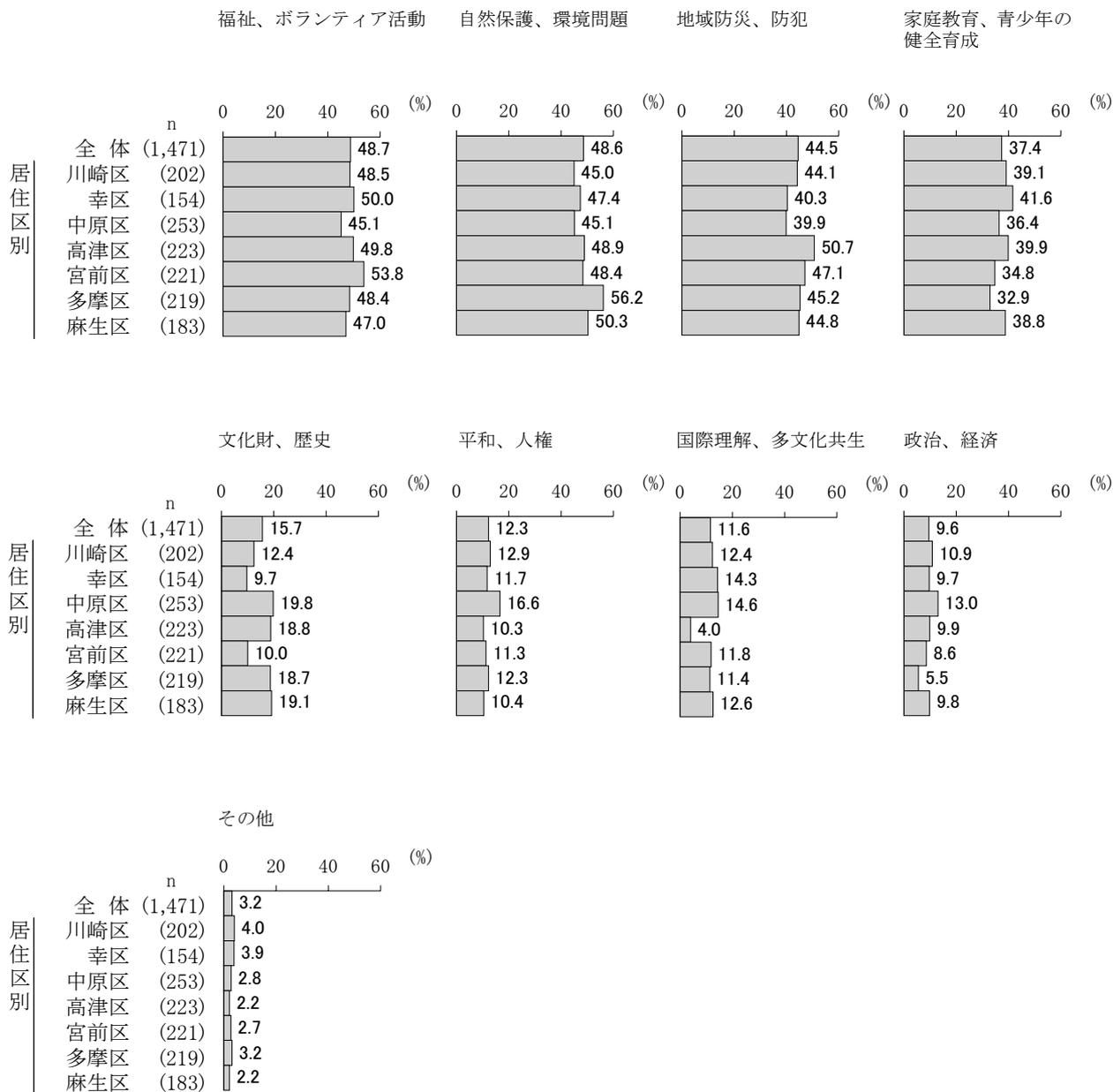
(あてはまるものすべてに○)

図表5-12 よりよい地域づくりのために必要な学習機会の内容



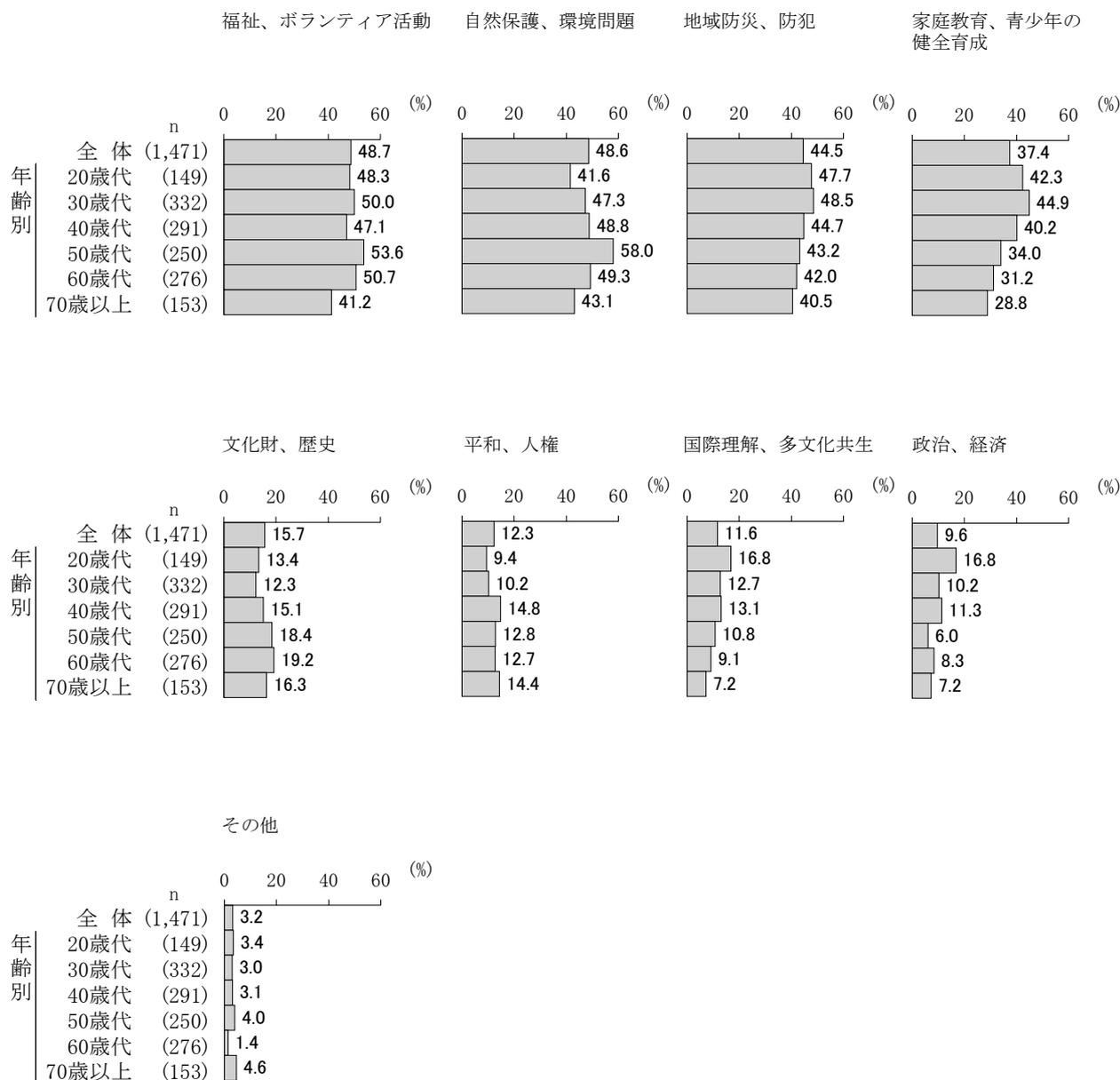
よりよい地域づくりのために必要な学習機会の内容は、「福祉、ボランティア活動」(48.7%)が最も多くなっている。次いで、「自然保護、環境問題」(48.6%)、「地域防災、防犯」(44.5%)となっている。(図表5-12)

図表5-13 よりよい地域づくりのために必要な学習機会の内容（居住区別）



居住区別では、「福祉、ボランティア活動」は、幸区と宮前区が5割以上と多くなっている。「自然保護、環境問題」は、多摩区と麻生区が5割以上と多くなっている。「地域防災、防犯」は、高津区が5割以上となっている。(図表5-13)

図表5-14 よりよい地域づくりのために必要な学習機会の内容（年齢別）



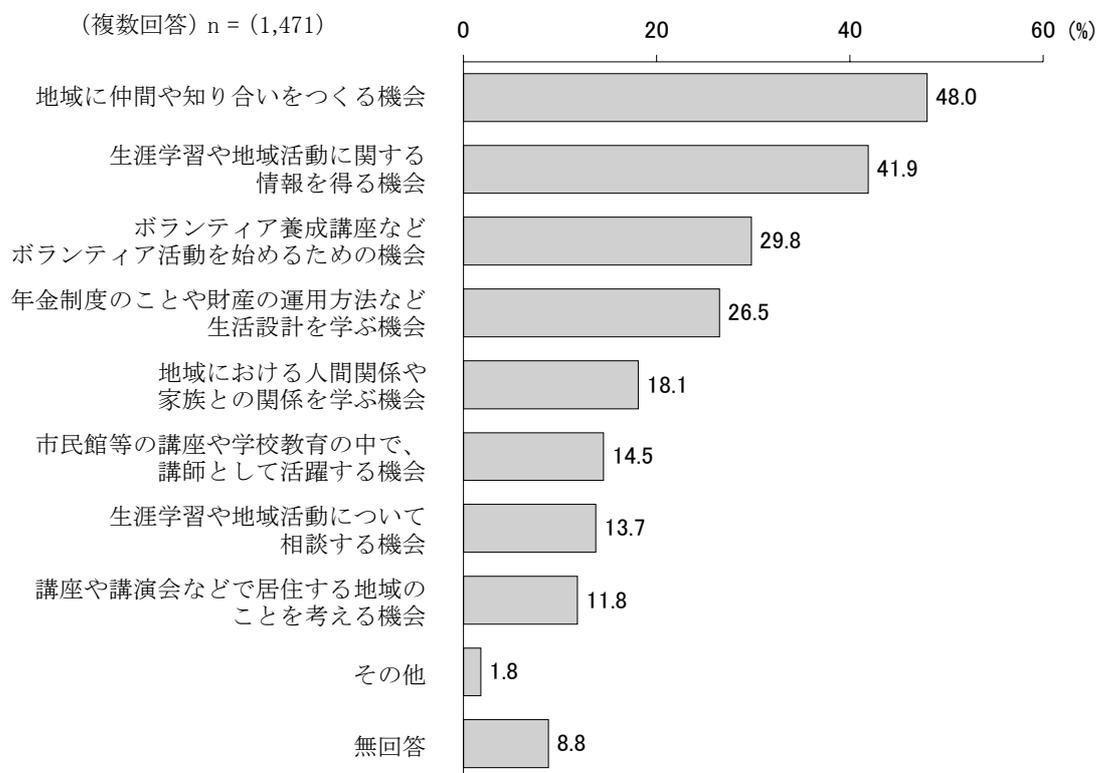
年齢別では、「地域防災、防犯」、「家庭教育、青少年の健全育成」は、30歳代が最も多く、年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「福祉ボランティア活動」、「自然保護、環境問題」は、50歳代が5割台と多くなっている。(図表5-14)

5-6 シニア世代が地域で活躍するために必要だと思うこと

◎「地域に仲間や知り合いをつくる機会」が48.0%

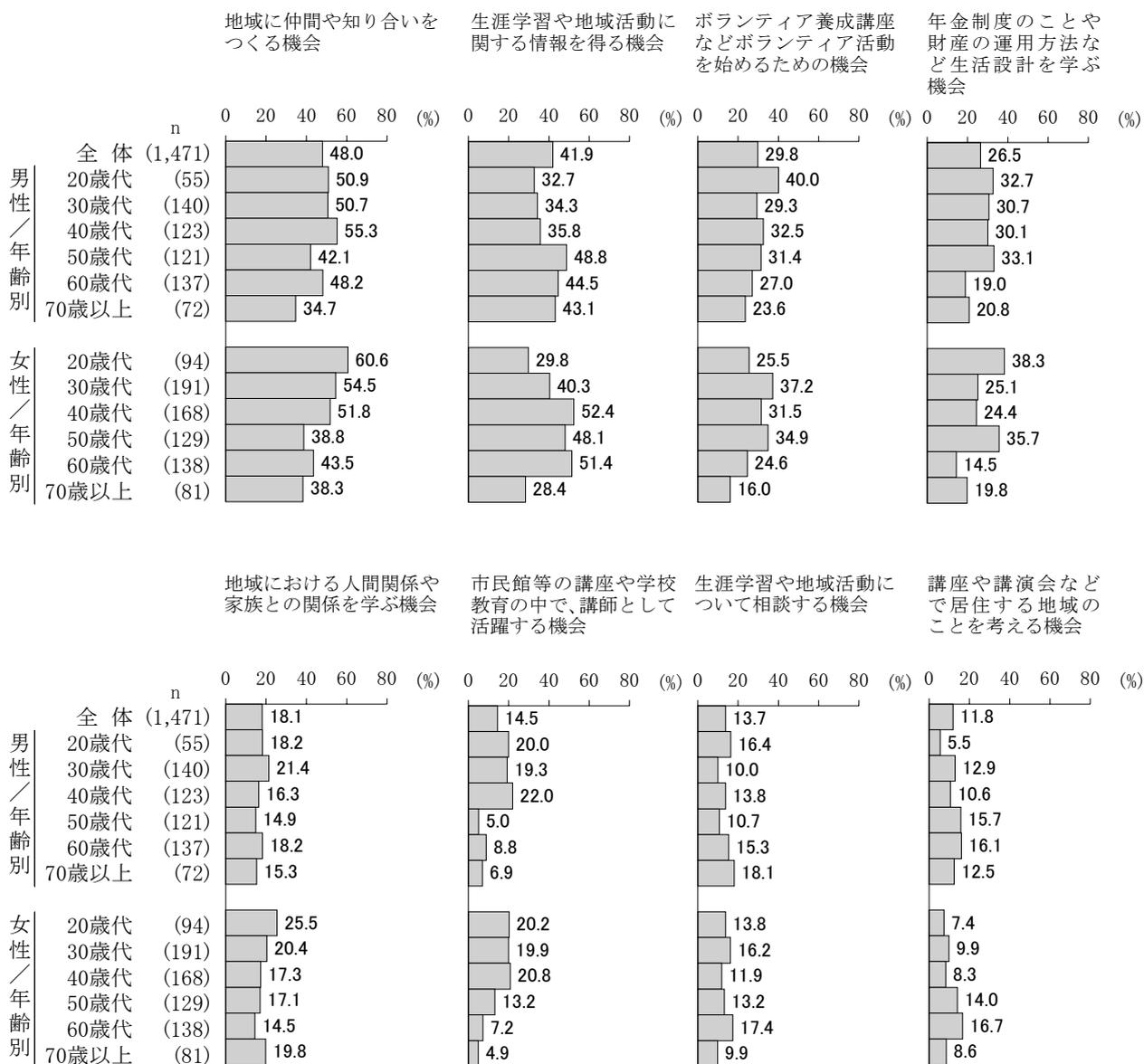
問 31 川崎市では、概ね 50 歳以上のシニア世代を対象に、経験・知識・能力を地域社会の中で発揮し、活躍していただく場を作ることに取組んでいます。市民館等では「シニアの社会参加支援事業」を開催していますが、シニア世代が地域で活躍するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表 5-15 シニア世代が地域で活躍するために必要だと思うこと



シニア世代が地域で活躍するために必要だと思うことは、「地域に仲間や知り合いをつくる機会」(48.0%)が最も多くなっている。次いで、「生涯学習や地域活動に関する情報を得る機会」(41.9%)、「ボランティア養成講座などボランティア活動をはじめための機会」(29.8%)となっている。(図表 5-15)

図表5-16 シニア世代が地域で活躍するために必要だと思うこと（性／年齢別）



性／年齢別では、「地域に仲間や知り合いをつくる機会」は、男女とも若年層の割合が多く、年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「生涯学習や地域活動に関する情報を得る機会」は男性50歳代から70歳以上が多く、女性は40歳代から60歳代が多くなっている。

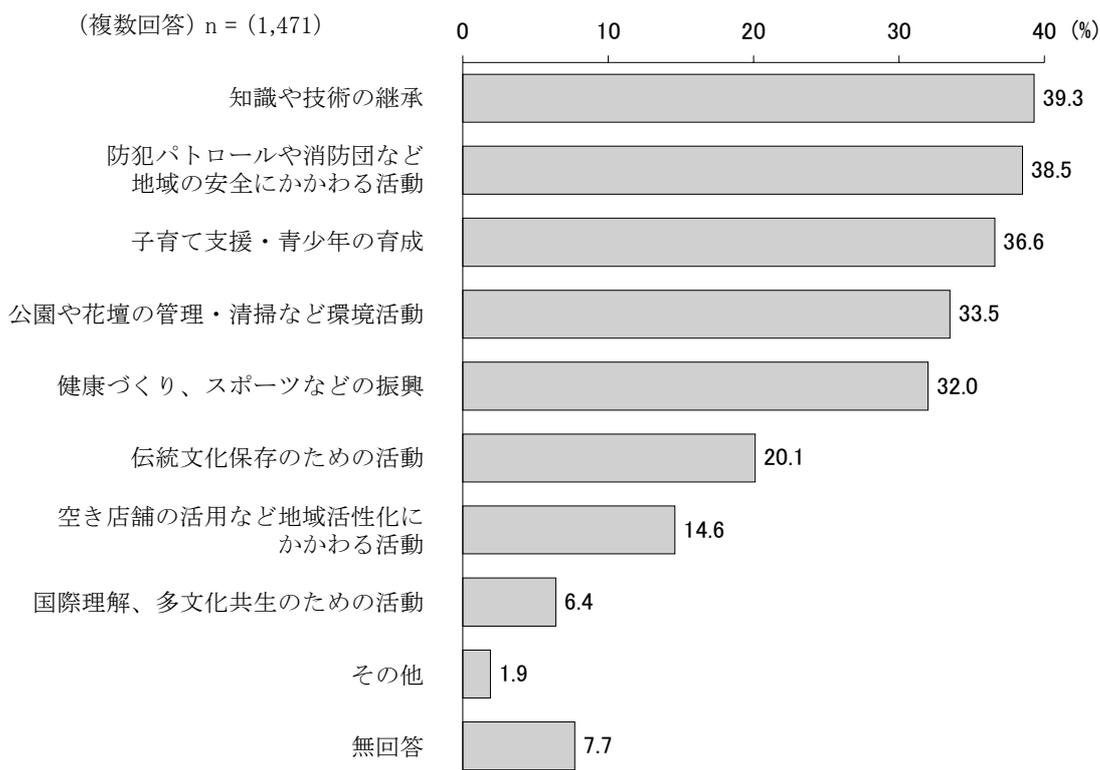
(図表5-16)

5-7 地域の中でシニア世代に期待すること

◎「知識や技術の継承」が39.3%、「防犯パトロールや消防団など地域の安全にかかわる活動」が38.5%

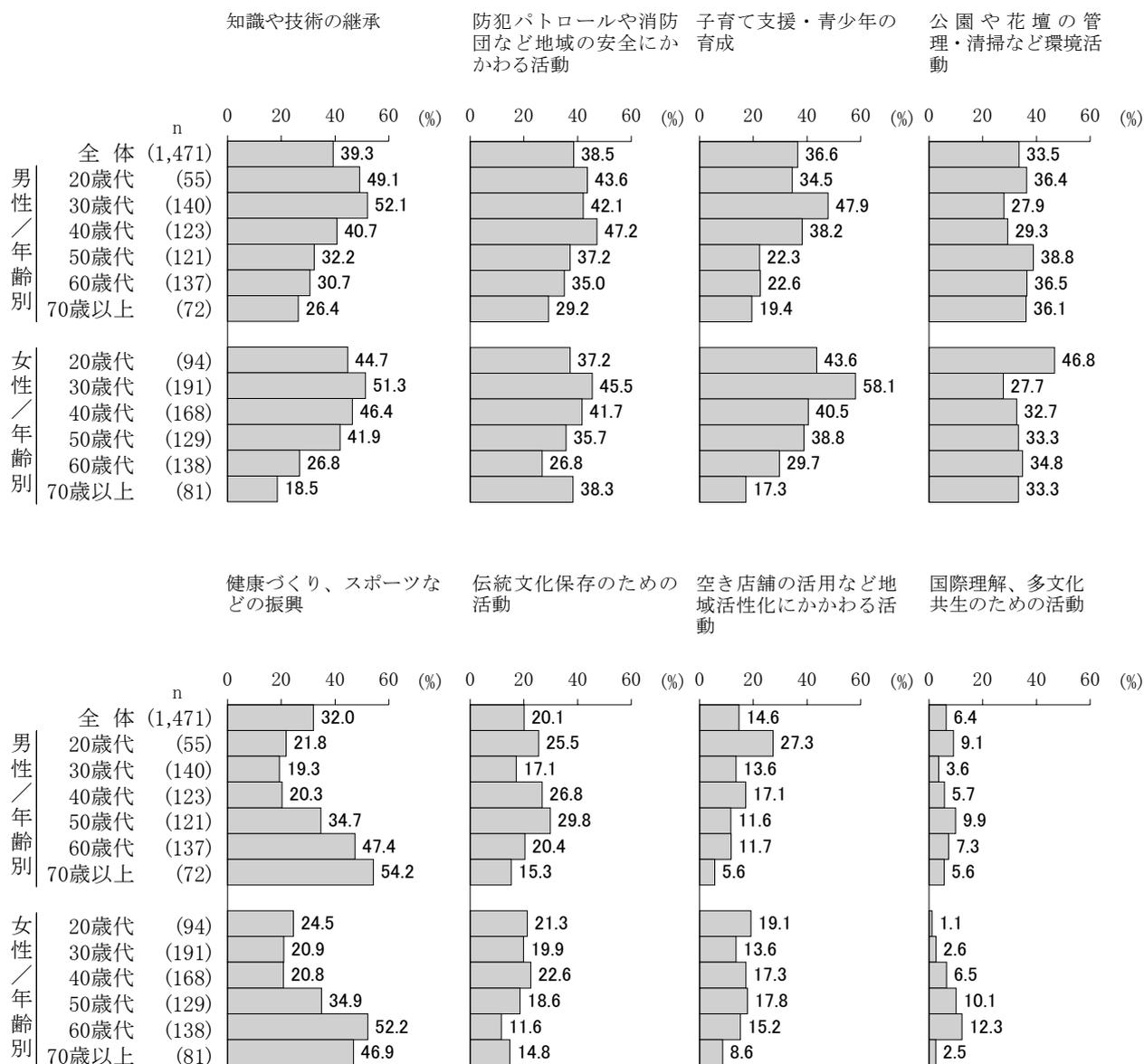
問32 地域の中で、シニア世代に期待することはどのようなことですか。(〇は3つまで)

図表5-17 地域の中でシニア世代に期待すること



地域の中でシニア世代に期待することは、「知識や技術の継承」(39.3%)が最も多くなっている。次いで、「防犯パトロールや消防団など地域の安全にかかわる活動」(38.5%)、「子育て支援・青少年の育成」(36.6%)となっている。(図表5-17)

図表5-18 地域の中でシニア世代に期待すること（性別／年齢別）



性別／年齢別では、「知識や技術の継承」、「子育て支援・青少年の育成」は、男女ともに30歳代の割合が最も多く、年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「健康づくり、スポーツなどの振興」は、男女ともに30歳代から70歳以上で年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。(図表5-18)

6 川崎市公共施設利用予約システム「ふれあいネット」について

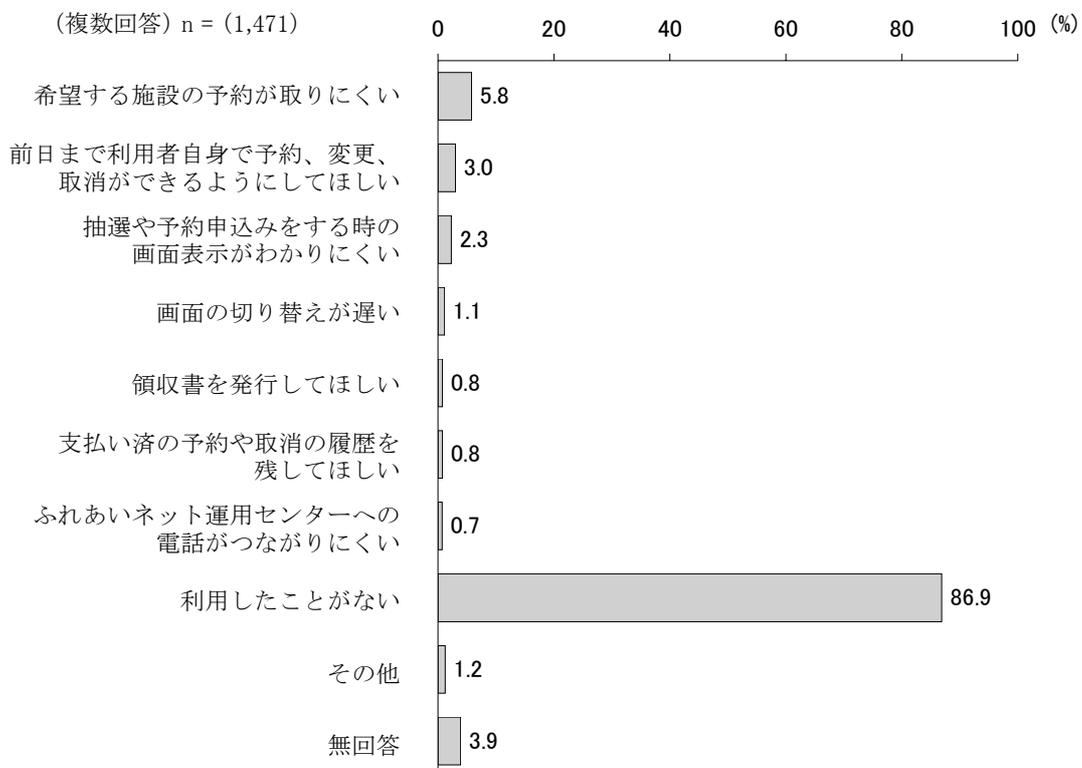
6-1 「ふれあいネット」に対する意見と要望

◎「利用したことがない」が86.9%

問33 川崎市公共施設利用予約システム「ふれあいネット」を利用されたことがありますか。利用された方は、「ふれあいネット」に対するご意見、ご要望について下記からお答えください。

(〇は3つまで)

図表6-1 「ふれあいネット」に対する意見と要望



「ふれあいネット」に対する意見と要望は、「希望する施設の予約が取りにくい」(5.8%)、「前日まで利用者自身で予約、変更、取消が出来るようにしてほしい」(3.0%)、「抽選や予約申込みをするときに画面表示がわかりにくい」(2.3%)となっている。一方、「利用したことがない」が86.9%となっている。(図表6-1)

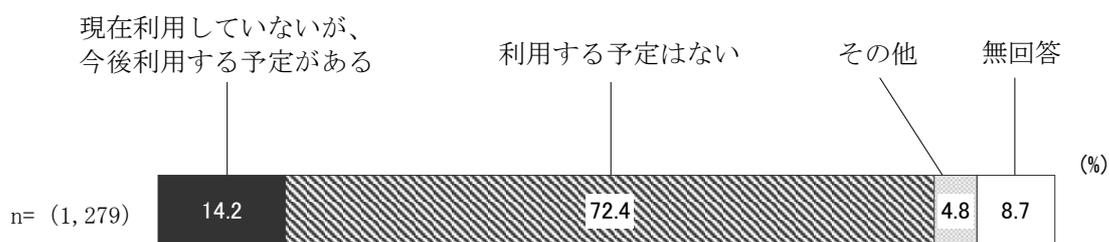
6-2 「ふれあいネット」の利用予定

◎「現在利用していないが、今後利用する予定がある」が14.2%、「利用する予定はない」が72.4%

(問33で「利用したことがない」と答えた方にうかがいます。)

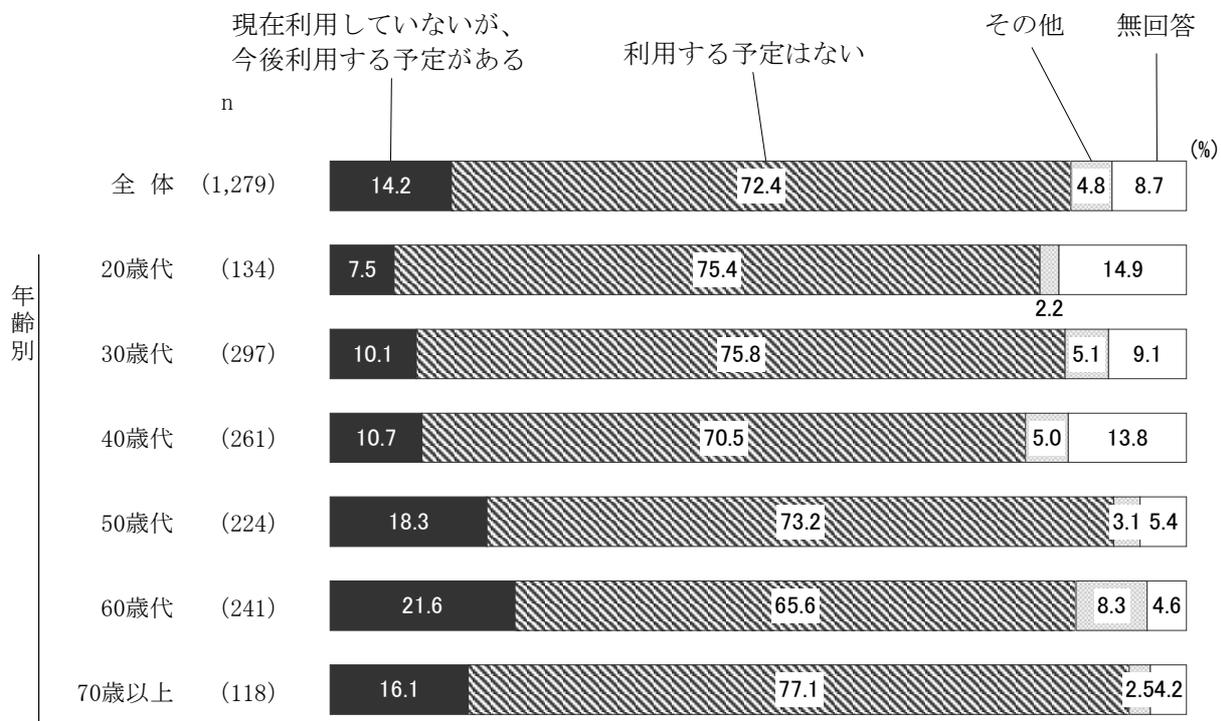
問34 今後、「ふれあいネット」を利用する予定がありますか。(○は1つ)

図表6-2 「ふれあいネット」の利用予定



「ふれあいネット」の利用予定は、「現在利用していないが、今後利用する予定がある」が14.2%、「利用する予定はない」が72.4%となっている。(図表6-2)

図表6-4 「ふれあいネット」の利用予定(年齢別)



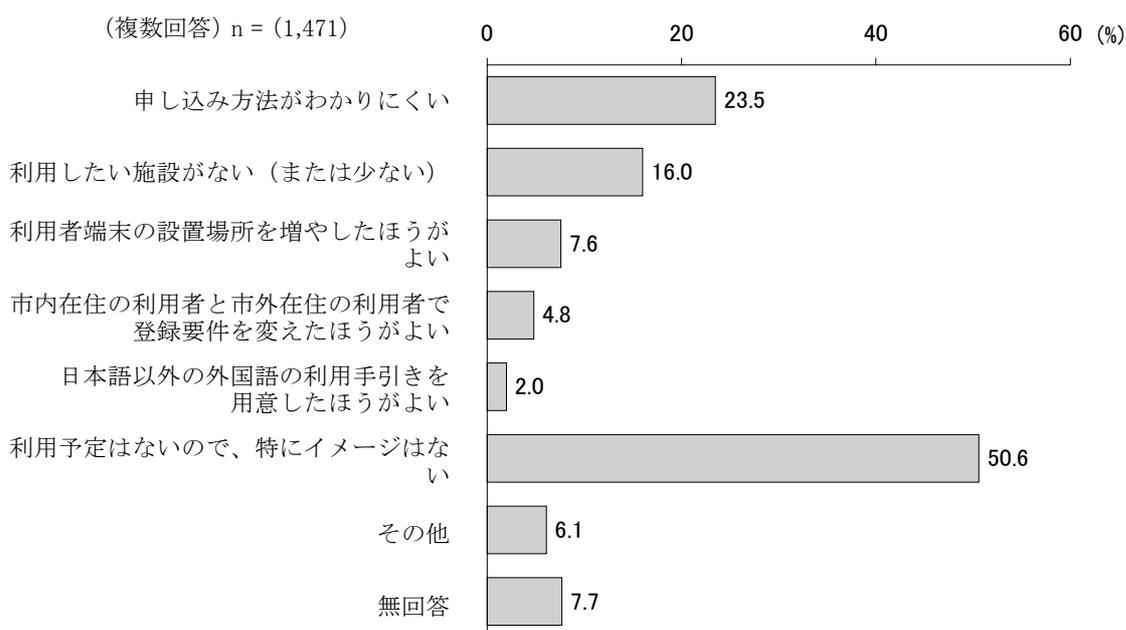
年齢別では、「現在利用していないが、今後利用する予定がある」は、年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向になっている。(図表6-4)

6-3 「ふれあいネット」のイメージ

◎「申し込み方法がわかりにくい」が23.5%、「利用予定はないので、特にイメージはない」が50.6%

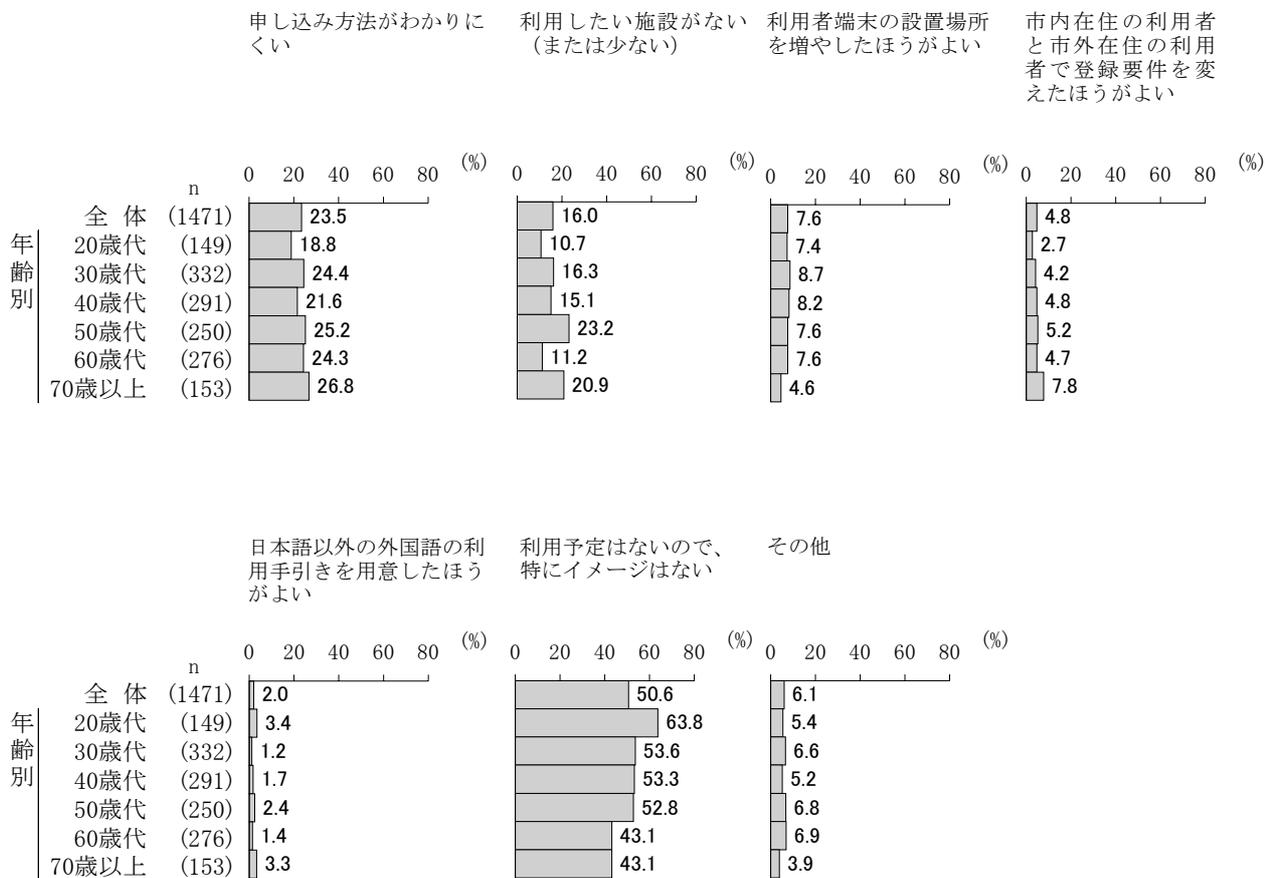
問35 「ふれあいネット」に関して、どのようなイメージがありますか。(〇は3つまで)

図表6-5 「ふれあいネット」のイメージ



「ふれあいネット」のイメージは、「申し込み方法がわかりにくい」(23.5%)が最も多くなっている。次いで、「利用したい施設がない(または少ない)」(16.0%)、「利用者端末の設置場所をふやしたほうがよい」(7.6%)となっている。一方、「利用予定はないので、特にイメージはない」(50.6%)となっている。(図表6-5)

図表6-6 「ふれあいネット」のイメージ(年齢別)



年齢別では、「申し込み方法がわかりにくい」は、20歳代を除くすべての年齢が2割台となっている。「利用したい施設がない(または少ない)」は50歳代と70歳以上が2割台となっている。(図表6-6)